

2024年
豊岡市まちづくりアンケート
～政策モニタリング調査～

結 果 報 告 書

2024年3月
豊岡市DX推進部経営企画課

目 次

I	調査概要	1
II	調査結果	2
1	回答者の属性	2
2	自然と環境について（問 8～問 11）	6
3	子育てと教育について（問 12～問 18）	12
4	環境と経済について（問 19～問 20）	21
5	健康と運動について（問 21～問 25）	23
6	公共交通について（問 26～問 29）	29
7	地域の歴史、伝統、文化芸術（問 30～問 35）	34
8	防災について（問 36～問 42）	41
9	まちづくりと観光について（問 43～問 48）	49
III	調査票	55

I 調査概要

1 調査の目的

豊岡市は、よりよいまちづくりを行うために、市の重要政策について戦略的政策評価を実施している。戦略的政策評価は、目指す姿を明確にしたうえで、それを実現する手段を段階的かつ論理的に立案し、改善していく手法である。

有効な手段の立案や改善を行うためには、市が保有している行政情報の他に、市民の考え方や行動などの情報も必要となる。本アンケート調査は、市の重要政策に関する市民の考え方や行動などについて、定期的かつ統計的に分析し、客観的な情報を得るために実施しているものである。

2 調査の対象等

本アンケートの対象等は、次表のとおりである。

調 査 対 象	無作為に抽出した 18 歳以上の市内在住者 4,000 人
調 査 方 法	配布：郵送 回答：郵送、ウェブ
調 査 期 間	2024 年 1 月 15 日～2 月 5 日
回 答 数	1,759 票（回答率 44.0%） ※郵送：1,396 票 ウェブ：363 票
設 問 数	48 問 ※調査票は 55 ページ以降に掲載
実 施 主 体	豊岡市（DX推進部経営企画課経営企画係）

3 分析方法

- (1) 集計及び分析は「無回答」を除いた有効回答を対象に行っている。
- (2) 集計結果は小数点第 2 位（又は第 3 位）を四捨五入しており、表示の比率の合計が 100% にならない場合がある。
- (3) 分析においては、10 代と 20 代を「若年層」、30 代～60 代を「壮年層」、70 代と 80 代以上を「老年層」としている。

(4) 統計分析

ア 本調査の分析では、設問に対する最も否定的な回答選択肢から順に 1 から 5（又は 4）までの整数値に数値化し、分析可能にしている。

イ 当てはまるものを選ぶような設問についても、選択の有無を 0 と 1 の 2 値に数値化して分析可能にしている。

ウ 数値化した回答値について、2 つの集団（例えば男女間や地域間）や調査年ごとの回答平均値の差、属性による回答割合の差などが統計的に有意であるかどうかを、以下の統計的仮説検定の手法を用いて調べている。なお、有意水準 α は 5 % (0.05) としている。

- ・平均値の差の検定…独立したサンプルの t 検定
- ・クロス集計表における変数間の独立性の検定…ピアソンのカイ 2 乗検定
- ・変数間の相関係数の検定…無相関検定（スピアマンの順位相関係数）

エ 調査はその年度の 1 月に実施しているため、本報告書では「〇〇年調査」という呼称を用いている。

Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

(1) 性別（表1及び図1）

性別の回答者数は、男性 803 人（46.0%）、女性 938 人（53.7%）、その他 6 人（0.3%）であった。回答者の男女別の割合は、国勢調査における本市の男女比と比べて大きな差はない。

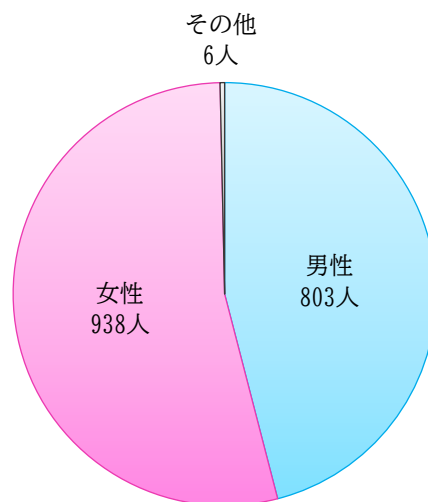
<表1：国勢調査との比較>

単位：%

	本アンケート	2020 年国勢調査
男性	46.0	48.1
女性	53.7	51.9
その他	0.3	-

有効回答数：1,747

図1：性別の回答者数



(2) 年齢（表2及び図2）

年代別の回答者数は、10代が25人（1.4%）、20代が79人（4.5%）、30代が117人（6.7%）、40代が195人（11.1%）、50代が283人（16.1%）、60代が364人（20.8%）、70代が443人（25.3%）、80代以上が247人（14.1%）である。

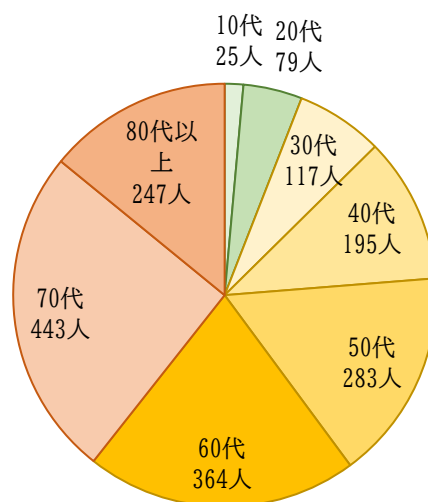
<表2：国勢調査との比較>

単位：%

	本アンケート	2020 年国勢調査
10代※	1.4	1.5
20代	4.5	7.7
30代	6.7	11.5
40代	11.1	15.4
50代	16.1	15.1
60代	20.8	17.1
70代	25.3	17.1
80代以上	14.1	14.5

有効回答数：1,753

図2：年代別の回答者数



※10代は18歳と19歳のみ

(3) 職業（表3）

回答者の職業は、「無職（年金収入のみを含む）」が最も多く（32.4%）、次いで「会社員、会社役員」（24.0%）、「パート、アルバイト」（14.8%）の順である。

<表3：回答者の職業>

	人数（人）	割合（%）
会社員、会社役員	417	24.0
自営業（農業含む）	166	9.5
公務員	112	6.4
パート、アルバイト	258	14.8
専業主婦・主夫	121	7.0
学生	41	2.4
NGO、NPO	8	0.5
無職（年金収入のみを含む）	564	32.4
その他	52	3.0

有効回答数：1,739

(4) 居住地域（表4）

回答者が住んでいる地域は豊岡地域（54.4%）が最も多い。回答者の地域別の割合は国勢調査と比べて大きな差はないが、城崎地域の回答率は比較的低い傾向にある。

<表4：回答者の居住地域>

	本アンケート		2020 年国勢調査
	人数（人）	割合（%）	割合（%）
豊岡地域	952	54.4	53.3
城崎地域	51	2.9	4.2
竹野地域	107	6.1	5.6
日高地域	359	20.5	19.8
出石地域	195	11.1	11.9
但東地域	86	4.9	5.1

有効回答数：1,750

(5) 年代別の家族構成（表5）

回答者の家族構成を年代別に見ると、60代と70代の回答者は「夫婦のみ」の割合が最も高いが、80代以上では「二世世代家族」が最も高くなっている。

<表5：回答者の年代別の家族構成>

		ひとり暮らし	夫婦のみ	夫婦と20歳未満の子ども	ひとり親と20歳未満の子ども	二世世代家族	三世世代家族	その他	合計
10代	人数（人）	3	0	11	0	5	5	0	24
	割合（％）	12.5	0	45.8	0	20.8	20.8	0	100
20代	人数（人）	15	9	7	0	29	13	5	78
	割合（％）	19.2	11.5	9.0	0	37.2	16.7	6.4	100
30代	人数（人）	5	11	55	4	27	14	1	117
	割合（％）	4.3	9.4	47.0	3.4	23.1	12.0	0.9	100
40代	人数（人）	8	13	85	6	47	31	4	194
	割合（％）	4.1	6.7	43.8	3.1	24.2	16.0	2.1	100
50代	人数（人）	31	74	29	1	87	35	25	282
	割合（％）	11.0	26.2	10.3	0.4	30.9	12.4	8.9	100
60代	人数（人）	39	148	3	2	108	38	25	363
	割合（％）	10.7	40.8	0.8	0.6	29.8	10.5	6.9	100
70代	人数（人）	50	194	6	0	88	65	36	439
	割合（％）	11.4	44.2	1.4	0	20.0	14.8	8.2	100
80代以上	人数（人）	44	71	1	1	79	26	20	242
	割合（％）	18.2	29.3	0.4	0.4	32.6	10.7	8.3	100

(6) 地域別の回答者家族の子どもの有無（表6）

同居家族に高校生以下の子どもがいる回答者は、地域別にみると豊岡地域が227人で最も多い。

<表6：子どもがいないと回答した人数（地域別）>

単位：人

	子ども有※	子ども有※		
		小学生以下	中学生	高校生
豊岡地域	227	156	80	72
城崎地域	5	3	2	1
竹野地域	21	12	7	7
日高地域	98	68	43	34
出石地域	46	33	12	12
但東地域	16	7	5	9
合計	413	279	149	135

※回答者により「小学生以下」と「中学生」など重複している場合もあるため、内訳の合計と「子ども有」の数とは一致しない。

(7) 地域別の住居形態（表 7）

回答者のほぼ 9 割が持ち家の一戸建てに住んでいる。

賃貸の集合住宅に住んでいる割合が高い地域は、豊岡地域の 9.1%、日高地域の 5.0%、竹野地域と出石地域の 3.8%である。

<表 7：地域別の回答者の居住形態>

		持ち家		賃貸		社宅・寮・ シェアハウス等	その他	合計
		一戸建て	集合住宅	一戸建て	集合住宅			
豊岡 地域	人数（人）	748	6	24	80	5	16	879
	割合（%）	85.1	0.7	2.7	9.1	0.6	1.8	100
城崎 地域	人数（人）	47	0	0	1	1	1	50
	割合（%）	94.0	0	0	2.0	2.0	2.0	100
竹野 地域	人数（人）	96	0	1	4	0	3	104
	割合（%）	92.3	0	1.0	3.8	0	2.9	100
日高 地域	人数（人）	309	1	9	17	2	1	339
	割合（%）	91.2	0.3	2.7	5.0	0.6	0.3	100
出石 地域	人数（人）	170	2	4	7	1	2	186
	割合（%）	91.4	1.1	2.2	3.8	0.5	1.1	100
但東 地域	人数（人）	77	0	1	1	1	1	81
	割合（%）	95.1	0	1.2	1.2	1.2	1.2	100
合計	人数（人）	1,447	9	39	110	10	24	1,639
	割合（%）	88.3	0.5	2.4	6.7	0.6	1.5	100

2 自然と環境について（問8～問11）

(1) 問8『あなたは、豊岡の自然の中で暮らすことに価値があると感じていますか』

これまでの調査における回答平均値は、表8のとおりである。

調査年の間で統計的に有意な差※はない。

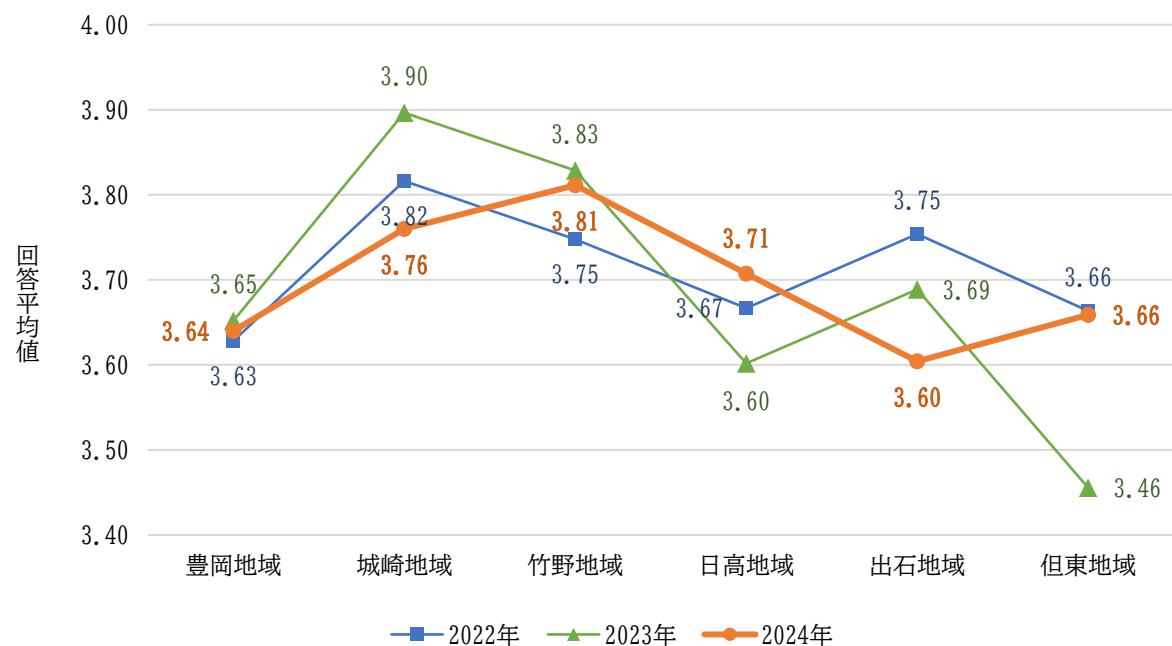
<表8：調査年ごとの回答平均値>

2022 年調査	3.66
2023 年調査	3.66
2024 年調査	3.66

地域別の結果は、図3のとおりである。

2024 年調査においては、それぞれの地域間において統計的に有意な差はない。また、それぞれの地域における前回調査との差についても、有意差は認められない。

図3：豊岡の自然の中で暮らすことに価値があると感じているか



男女別の回答平均値の推移は、表9のとおりである。

2024 年調査において、男女間における回答平均値の差に統計的な有意差はない。

<表9：調査年ごとの男女別の回答平均値>

	男性	女性
2022 年調査	3.68	3.65
2023 年調査	3.61	3.70
2024 年調査	3.62	3.69

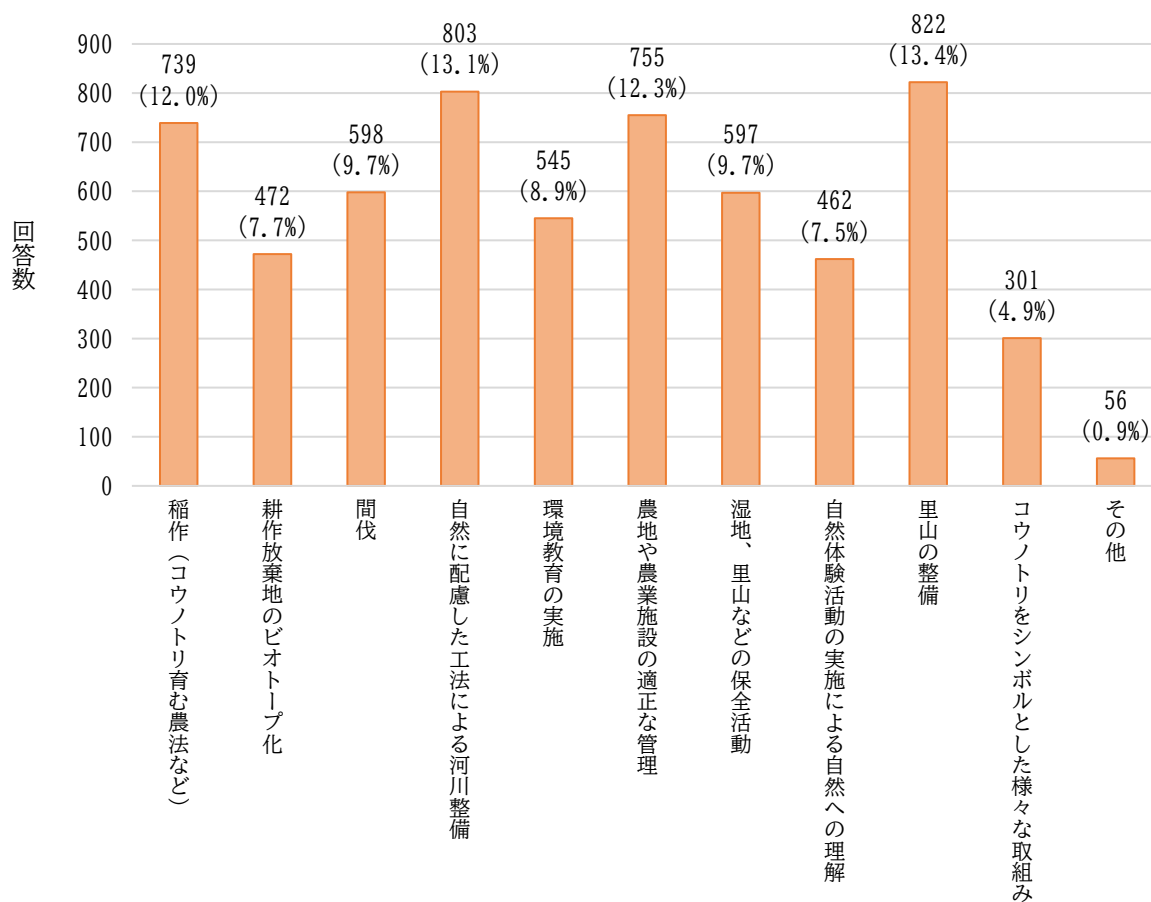
※2群の平均値の差における「統計的に有意な差」とは、得られたアンケート結果から母集団の値を推測したとき、母集団における2群の平均値に差があるかどうかということ。検定の結果有意な差が認められない場合は、2群の平均値の差が0である（差がない）可能性を否定できないということになる。

(2) 問9『あなたは、生物多様性保全のためにどのような取組みが重要と思いますか』

全体の集計結果は、図4のとおりである。

回答数が多い取組みは、「里山の整備」(822 人)、「自然に配慮した工法による河川整備」(803 人)、「農地や農業施設の適正な管理」(755 人)、「稲作(コウノトリ育む農法など)」(739 人)、などである。

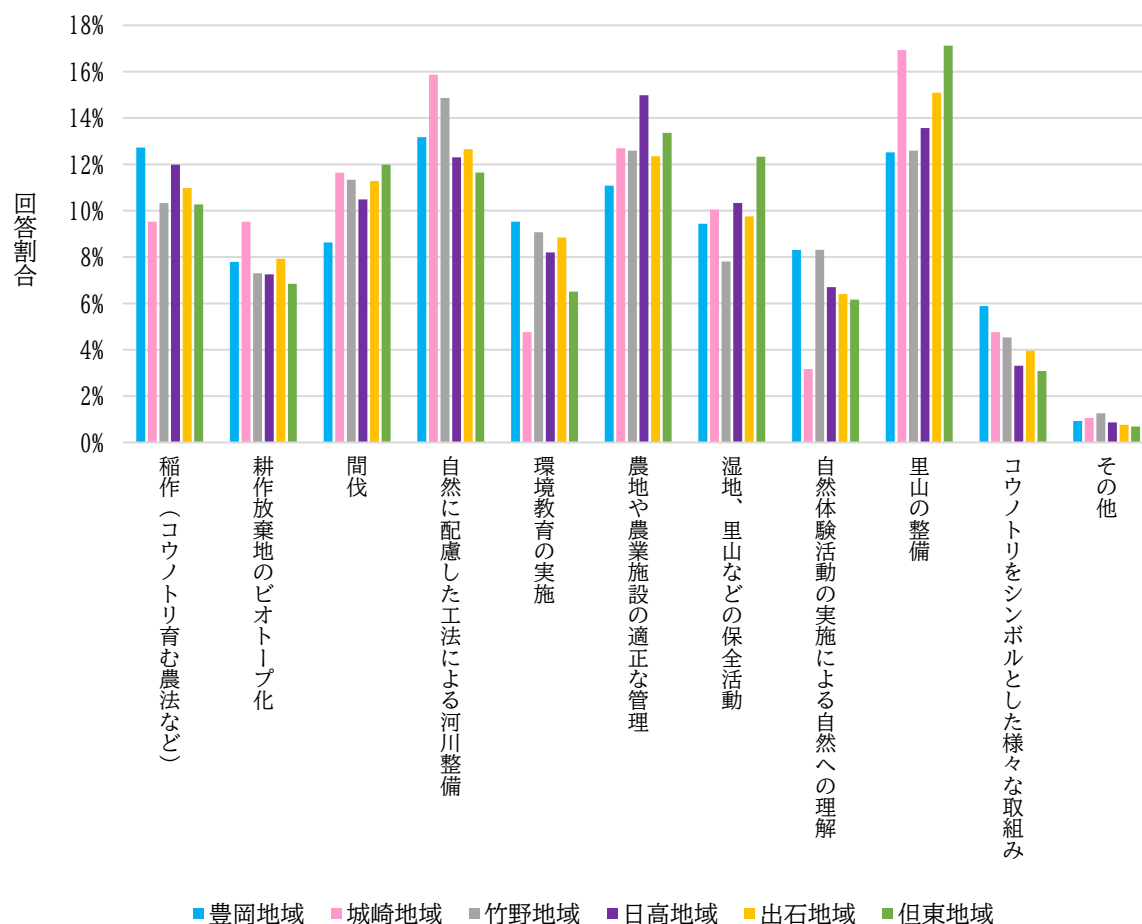
図4：生物多様性保全のために重要と思う取組み（全地域集計）



各項目の回答数が地域別の回答総数に占める割合を見ると、図5のとおりである。

これまでの調査を通じて、おおむね豊岡地域や城崎地域、竹野地域では「自然に配慮した工法による河川整備」が、竹野地域や但東地域では「里山の整備」の回答割合が高い傾向にある。何を重要と感じるかについては、それぞれの地域における河川や山が占める割合と関係があることが推測できる。

図5：生物多様性保全のために重要と思う取組み（地域別の回答割合）



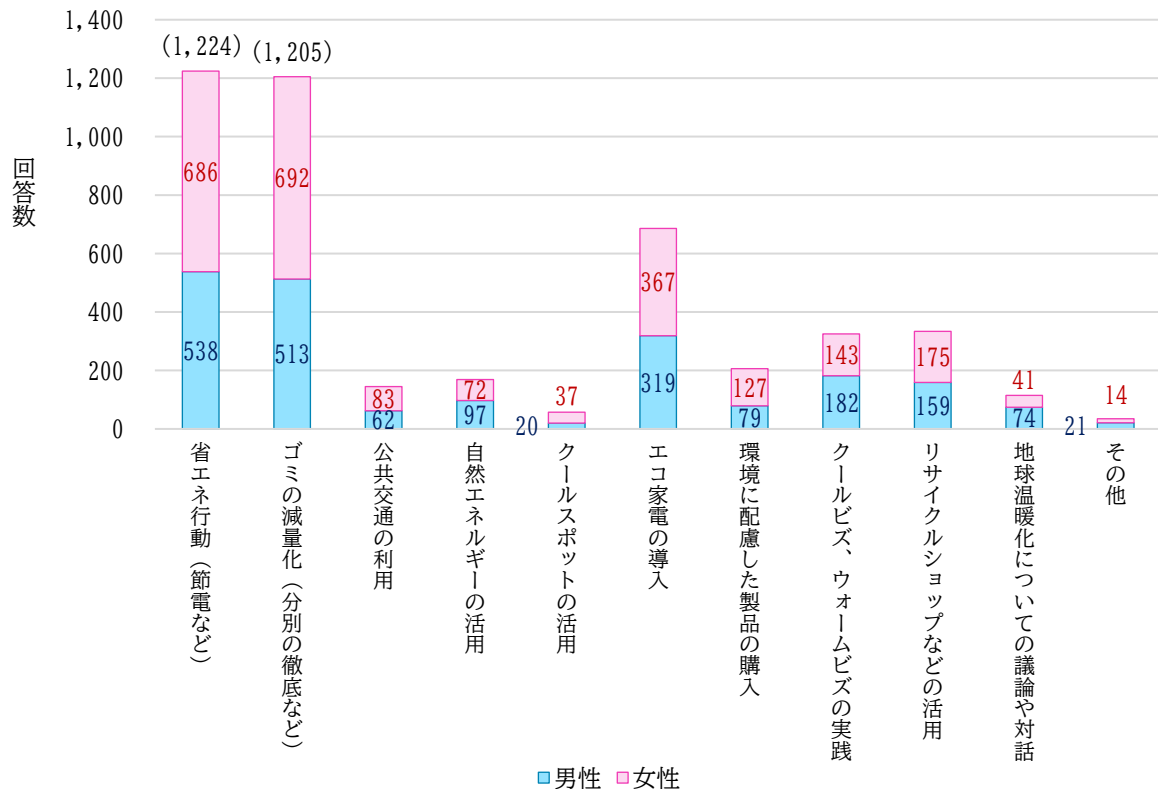
(3) 問 10『あなたは、地球温暖化対策として、普段どのようなことを実践していますか』

2024 年調査における男女別の集計結果は、図 6 のとおりである。

回答の多い取組みは、「省エネ行動（節電など）」（1,224 人）、「ゴミの減量化（分別の徹底など）」（1,205 人）である。

昨年の調査と比較すると、「エコ家電の導入」の回答割合が男女とも約 4 ポイントと比較的大きく増加しており、昨年、市民を対象に行った省エネ家電買い替え支援事業が影響した可能性がある。

図 6：地球温暖化対策として実践していること



男女間で、「実践している」と回答した割合に有意な差がある取組みは、次のとおりである。

<男性のほうに有意に回答割合が高い項目>

- ・自然エネルギーの活用（太陽光パネルの設置など）
- ・クールビズ、ウォームビズの実践
- ・地球温暖化についての議論や対話

<女性のほうに有意に回答割合が高い項目>

- ・省エネ行動（節電など）
- ・ゴミの減量化（分別の徹底など）
- ・環境に配慮した製品の購入（オーガニック、有機 J A S など）

その他の意見としては、「自転車の活用」や「できるだけ車は使わない」、また「スーパーでの『てまえどり』」といった意見があった。一方、これまでの調査で見られたエコバッグやマイボトルの使用といった意見は見られなかったが、これらの使用が一般的になってきたためとも考えられる。

(4) 問 11『あなたは、森林資源（木質バイオマス）や自然エネルギー（太陽光、風力、水力）などの「持続可能な地域資源」が有効に利用されていると思いますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 10 のとおりである。

調査年の間で統計的に有意な差はない。

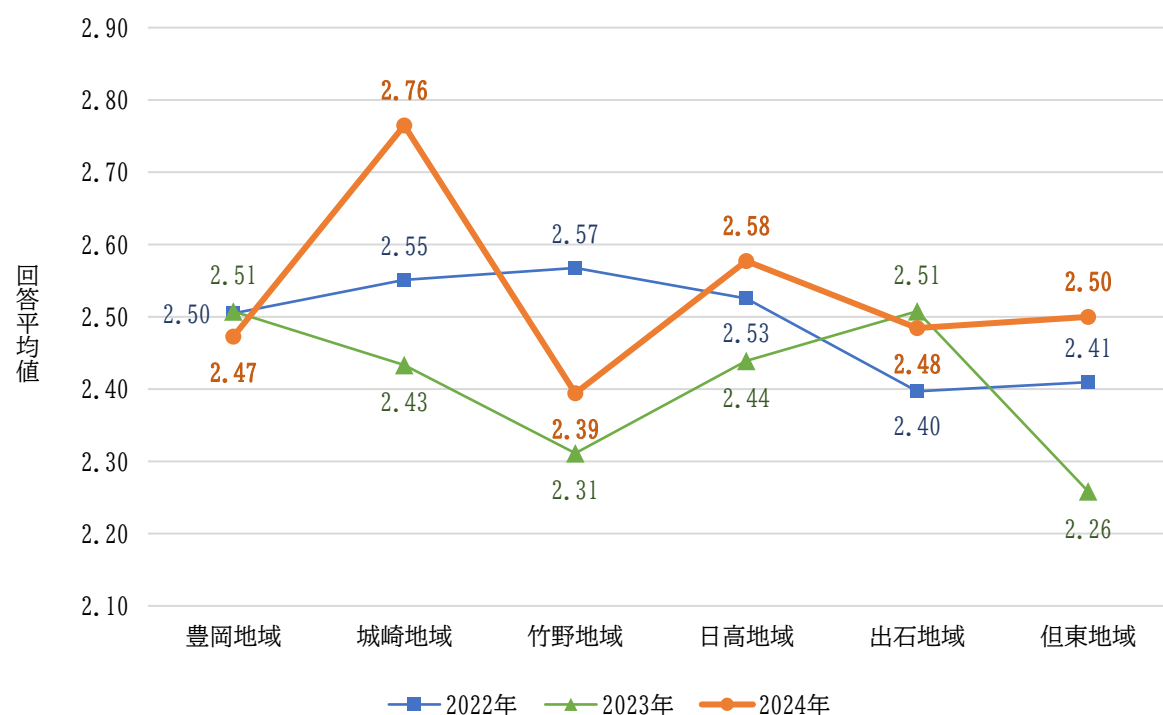
<表 10：調査年ごとの回答平均値>

2022 年調査	2.50
2023 年調査	2.47
2024 年調査	2.50

地域別の結果は、図 7 のとおりである。

2024 年調査においては、城崎地域及び日高地域の回答平均値が昨年に比べ有意に上昇しており、これらの地域においては持続可能な地域資源の有効利用について肯定的な回答が増加していると言える。

図 7：「持続可能な地域資源」が有効利用されていると思うか



男女別の回答数及び回答数に占める割合は、表 11 のとおりである。

各選択肢の回答割合と男性・女性との関係性に統計的に有意な差があり、「まったくそう思わない」の回答割合は、女性に比べ男性のほうが有意に高い。

<表 11：男女別の回答内訳>

		まったくそう 思わない	あまりそう 思わない	どちらとも 言えない	ある程度 そう思う	とても そう思う	合 計
男性	人数（人）	97	379	198	101	14	789
	割合（％）	12.3	48.0	25.1	12.8	1.8	100
女性	人数（人）	58	423	313	112	8	914
	割合（％）	6.3	46.3	34.2	12.3	0.9	100

年代別の回答数及び回答数に占める割合は、表 12 のとおりである。

各年代とも「あまりそう思わない」の回答割合が最も高く、10代と70代では5割を超えている。

<表 12：年代別の回答内訳>

		まったくそう 思わない	あまりそう 思わない	どちらとも 言えない	ある程度 そう思う	とても そう思う	合 計
10代	人数（人）	3	15	3	2	2	25
	割合（％）	12.0	60.0	12.0	8.0	8.0	100
20代	人数（人）	6	32	28	10	2	78
	割合（％）	7.7	41.0	35.9	12.8	2.6	100
30代	人数（人）	12	49	43	11	1	116
	割合（％）	10.3	42.2	37.1	9.5	0.9	100
40代	人数（人）	14	84	71	21	3	193
	割合（％）	7.3	43.5	36.8	10.9	1.6	100
50代	人数（人）	30	118	90	33	7	278
	割合（％）	10.8	42.4	32.4	11.9	2.5	100
60代	人数（人）	33	158	116	50	2	359
	割合（％）	9.2	44.0	32.3	13.9	0.6	100
70代	人数（人）	35	236	103	54	3	431
	割合（％）	8.1	54.8	23.9	12.5	0.7	100
80代 以上	人数（人）	22	115	61	35	2	235
	割合（％）	9.4	48.9	26.0	14.9	0.9	100

3 子育てと教育について（問 12～問 18）

(1) 問 12『あなたは、豊岡市で子育てをする人は安心して子育てができていると思いますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 13 のとおりである。

調査年の間で統計的に有意な差はない。

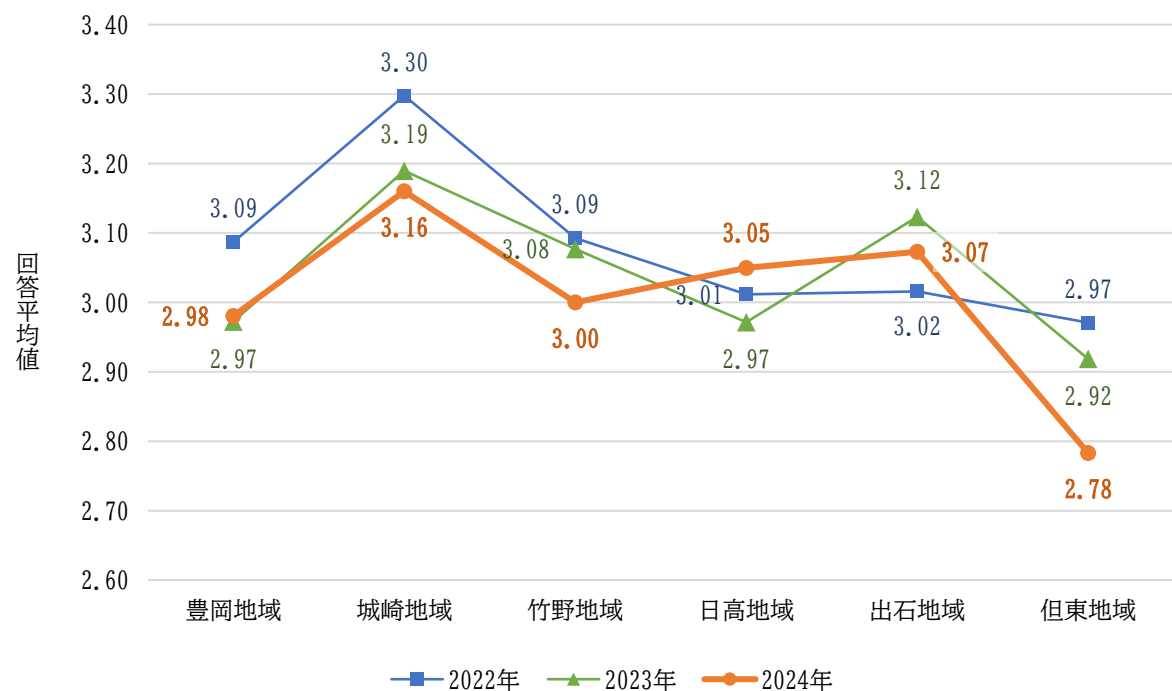
<表 13：調査年ごとの回答平均値>

2022 年調査	3.06
2023 年調査	2.99
2024 年調査	3.00

地域別の結果は、図 8 のとおりである。

これまでの調査を通じて、城崎地域の回答平均値が比較的高い傾向にある。2024 年調査においては、城崎地域と但東地域との間に統計的に有意な差があり、この 2 地域間では城崎地域のほうが安心して子育てができると感じている人が多いと言える。

図 8：豊岡市で安心して子育てができと思うか



男女別の回答平均値の推移は、表 14 のとおりである。

2024 年調査において、男女間における回答平均値の差に統計的な有意差はない。

<表 14：調査年ごとの男女別の回答平均値>

	男性	女性
2022 年調査	2.97	3.13
2023 年調査	2.86	3.12
2024 年調査	2.96	3.03

(2) 問 13『子育てに関する悩みや不安を相談できる窓口として、あなたが知っているものはどれですか』

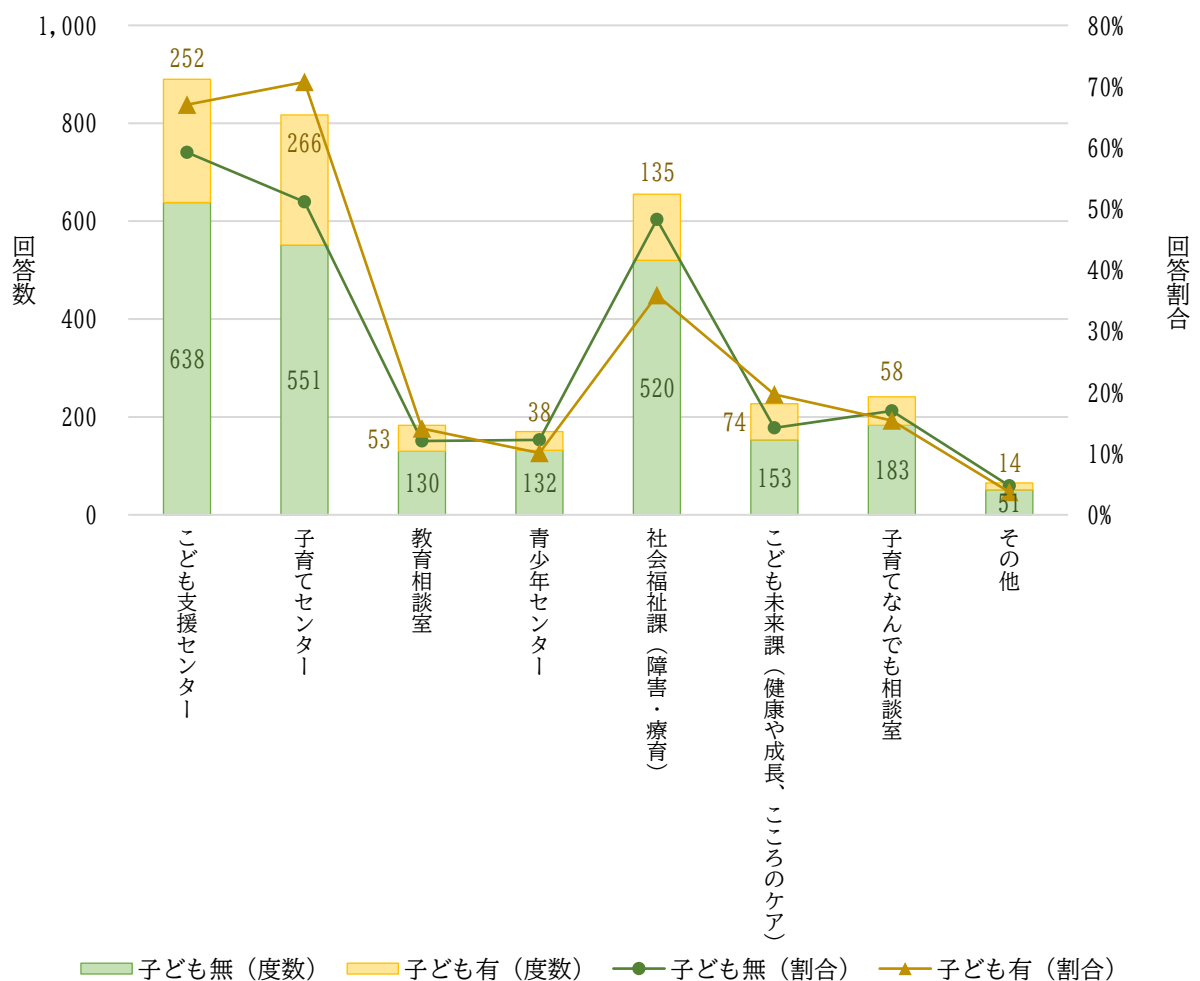
2024 年調査における、子どもの有無別の「知っている」の回答数と回答数に占める割合は、図 9 のとおりである。

選択肢の「こども未来課（健康や成長、こころのケア）」については、今年度より所管する部署が健康増進課からこども未来課に変わっているため、前回調査まで「健康増進課」であったところを今回調査から「こども未来課」に置き換えている。

前回調査の「健康増進課」では、知っていると回答した人数が子ども有と子ども無を合わせて 727 人だったが、今回調査の「こども未来課」では合計で 227 人と大きく減少している。

なお、子ども有の回答者と子ども無の回答者との間で、項目によって知っている割合に統計的に有意な差が見られた。「こども支援センター」と「子育てセンター」、「こども未来課（健康や成長、こころのケア）」については子ども有の回答者のほうが、「社会福祉課（障害・療育）」については子ども無の回答者のほうが有意に高い。

図 9：子育てに関する相談窓口で知っているもの



(3) 問 14『豊岡市の現状は、子育てと仕事の両立がしやすくなっていると思いますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 15 のとおりである。

調査年の間で統計的に有意な差はない。

<表 15：調査年ごとの回答平均値>

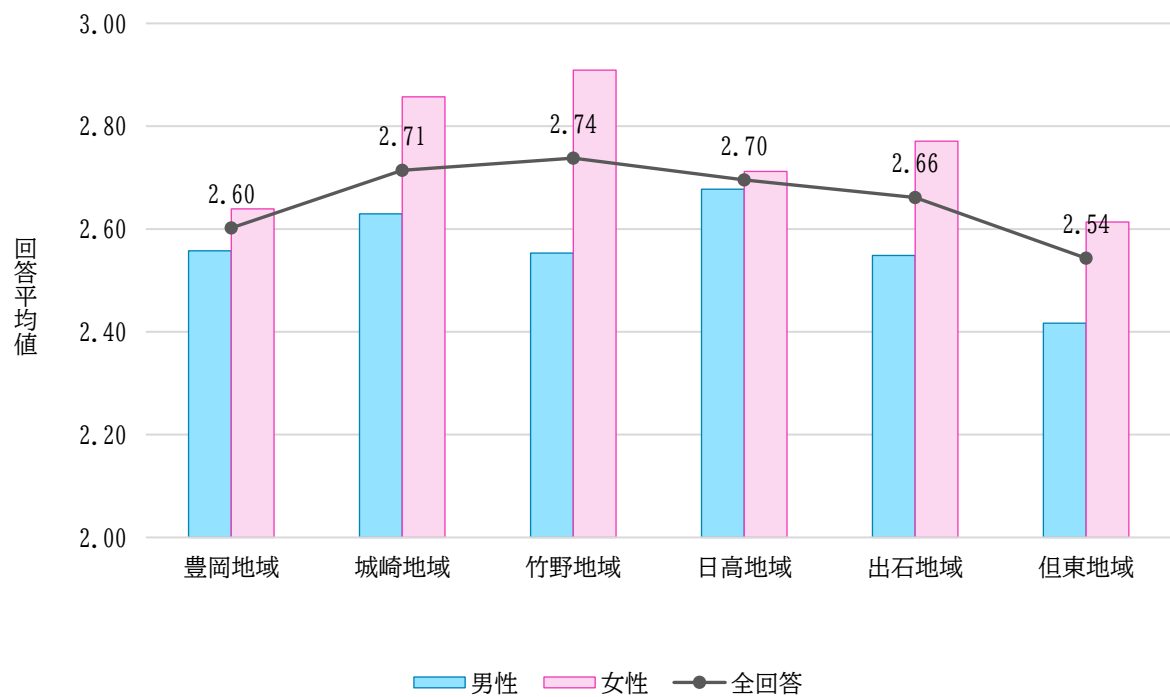
2022 年調査	2.65
2023 年調査	2.61
2024 年調査	2.63

地域別の結果は、図 10 のとおりである。

2024 年調査においては、地域間の全体の回答平均値に統計的に有意な差はない。

また、各地域における男女別の回答平均値を見ると、いずれの地域でも男性より女性のほうが高くなっているが、こちらも統計的に有意な差は認められなかった。

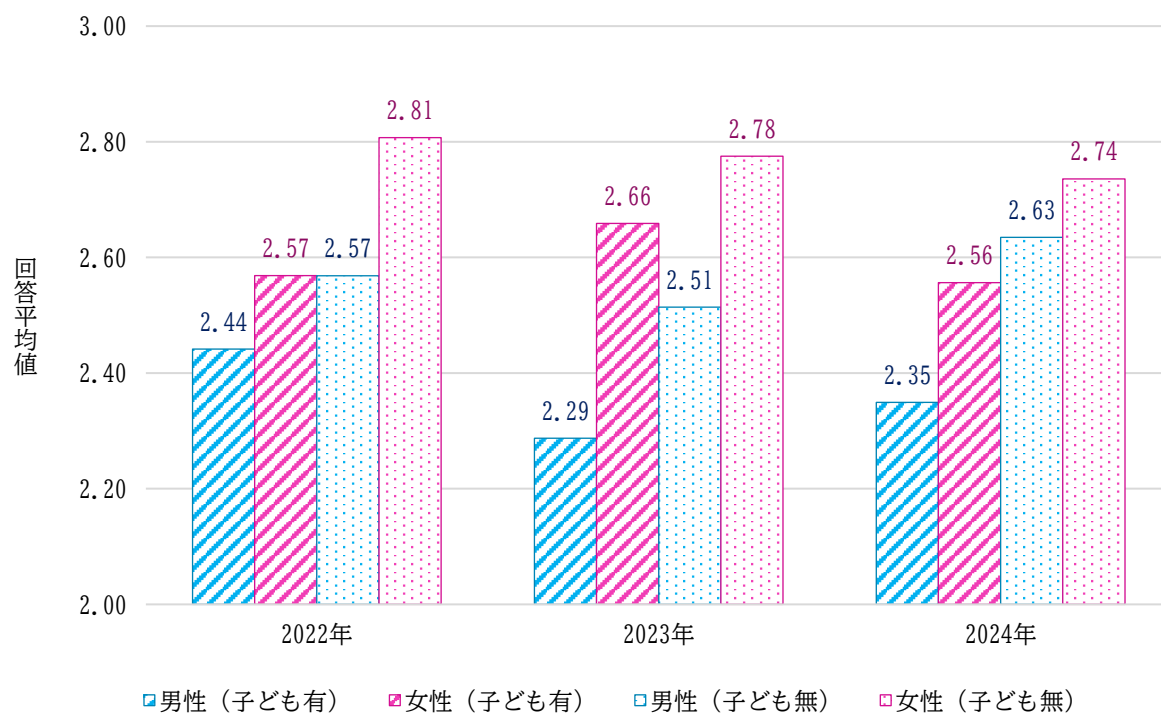
図10：子育てと仕事の両立がしやすいと思うか（地域別）



属性別の回答平均値の推移は、図 11 のとおりである。

これまでの調査と同様、2024 年調査においても子ども有の回答者と子ども無の回答者の双方で、男女間で統計的に有意な差がある。子どもの有無別で見ると、男性よりも女性のほうが子育てと仕事の両立がしやすいと思っていると言える。

図11：子育てと仕事の両立がしやすいと思うか（子どもの有無・男女別）

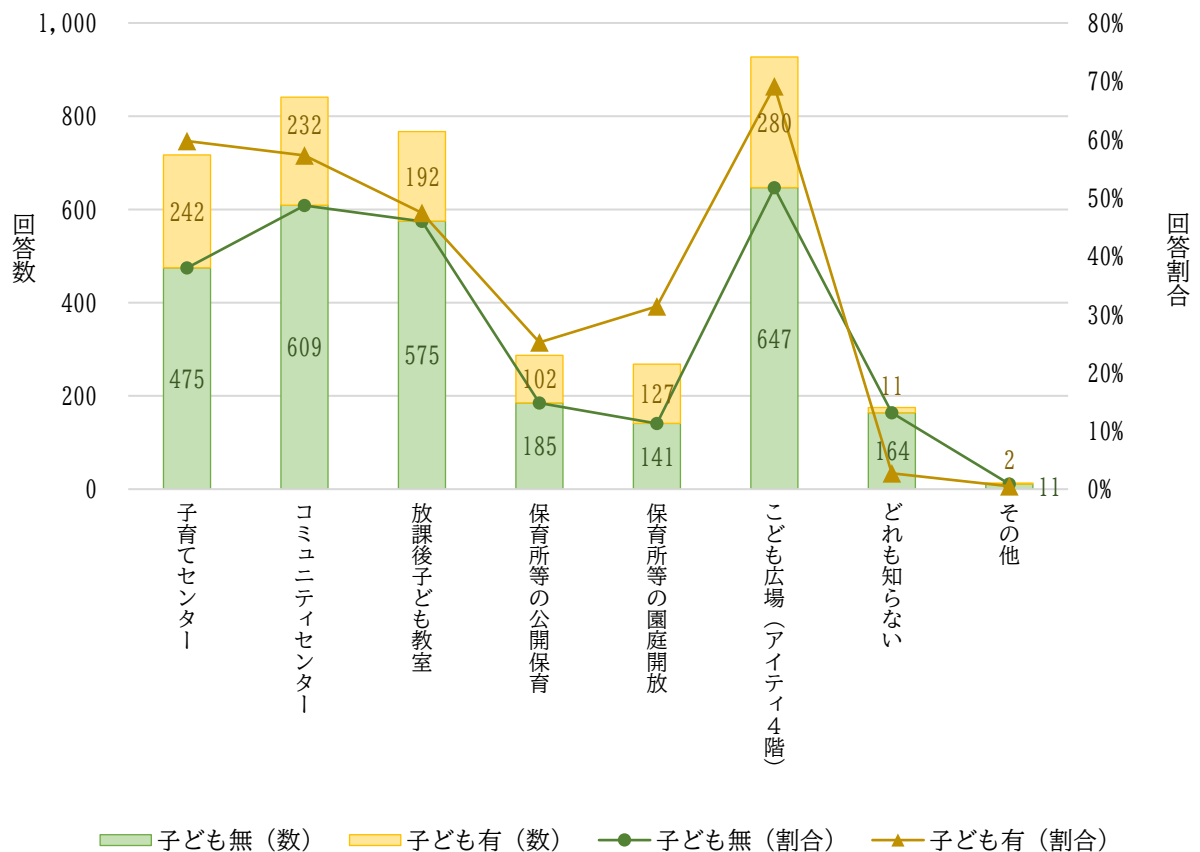


(4) 問 15『子どもたちが集まって交流できる場所のうち、あなたが知っているものはどれですか』

2024 年調査における、子どもの有無別の「知っている」の回答数と回答数に占める割合は、図 12 のとおりである。

前回調査とほぼ同様の結果であり、「こども広場（アイティ 4 階）」が子ども有の回答者と子ども無の回答者の双方で回答数が最も多く、知っていると答えた割合も最も高い結果となった。

図12：子どもたちが交流できる場所で知っているもの



(5) 問 16『あなたのまわりの子どもたち（小学生・中学生）は、まわりの大人たちとのあいさつや会話ができますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 16 のとおりである。

調査年の間で統計的に有意な差はない。

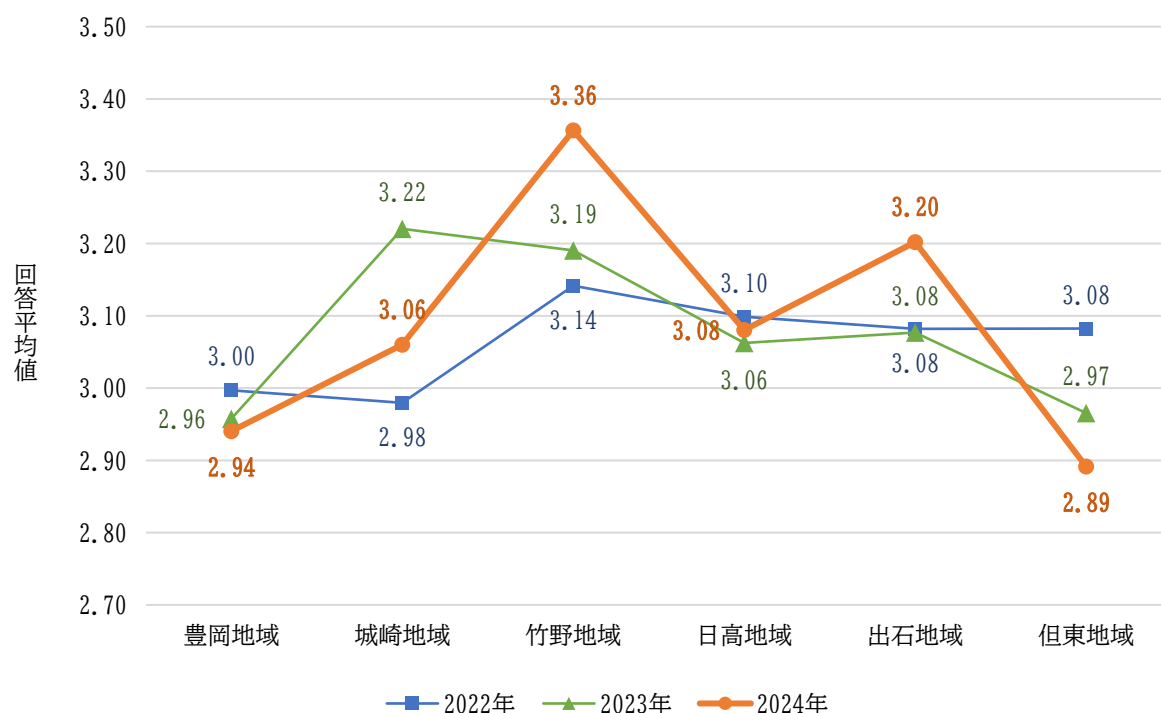
<表 16：調査年ごとの回答平均値>

2022 年調査	3.04
2023 年調査	3.02
2024 年調査	3.03

地域別の結果は、図 13 のとおりである。

2024 年調査においては、竹野地域では豊岡地域・日高地域・但東地域との間に、出石地域では豊岡地域・但東地域との間に、日高地域では豊岡地域との間に統計的に有意な差がある。これらの地域間では、子どもたちが大人とあいさつや会話ができていくかについて、感じ方に差があると言える。

図13：子どもたちは大人とあいさつや会話ができるか



(6) 問 17『あなたの地域では、お祭りなどの伝統行事に子どもたち（小学生・中学生）はどのくらい参加していますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 17 のとおりである。

調査年の間で統計的に有意な差はない。

<表 17：調査年ごとの回答平均値>

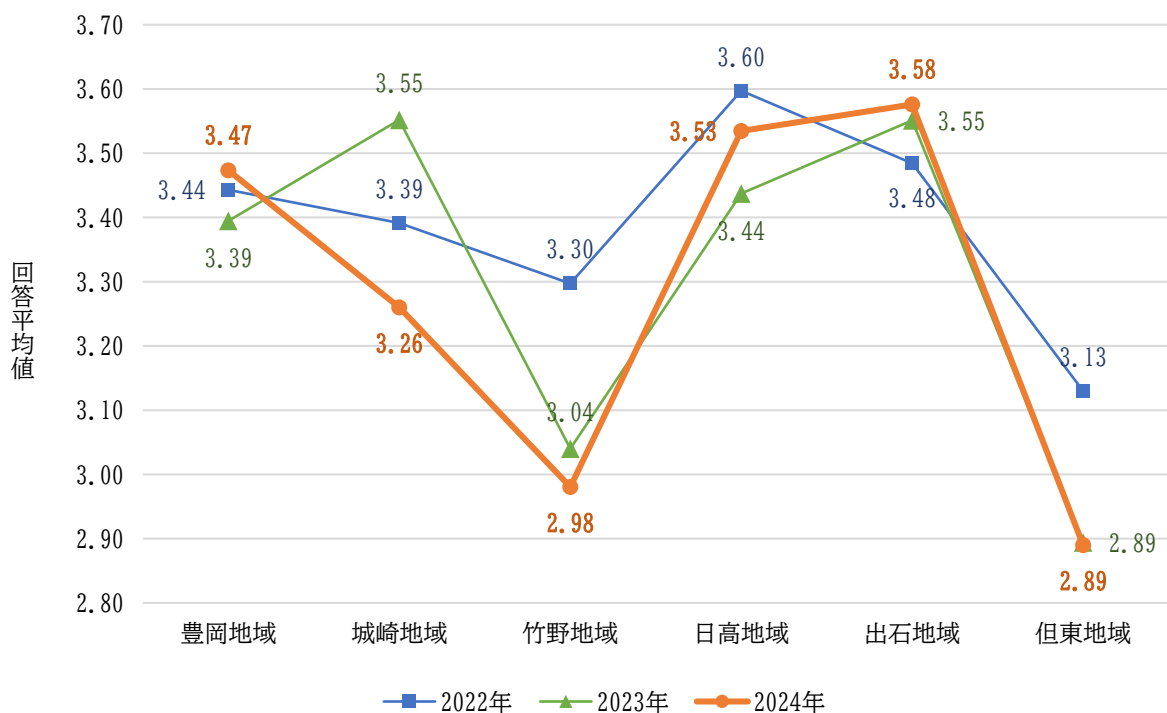
2022 年調査	3.45
2023 年調査	3.38
2024 年調査	3.43

地域別の結果は、図 14 のとおりである。

2024 年調査においては、城崎地域で前回調査と比べて比較的大きく回答平均値が低下しているが、統計的に有意な差ではなかった。

地域間の比較では、竹野地域及び但東地域は、城崎地域以外の他の地域と比べて有意に回答平均値が低く、竹野地域や但東地域では子どもたちの伝統行事への参加が少ないと感じているようである。

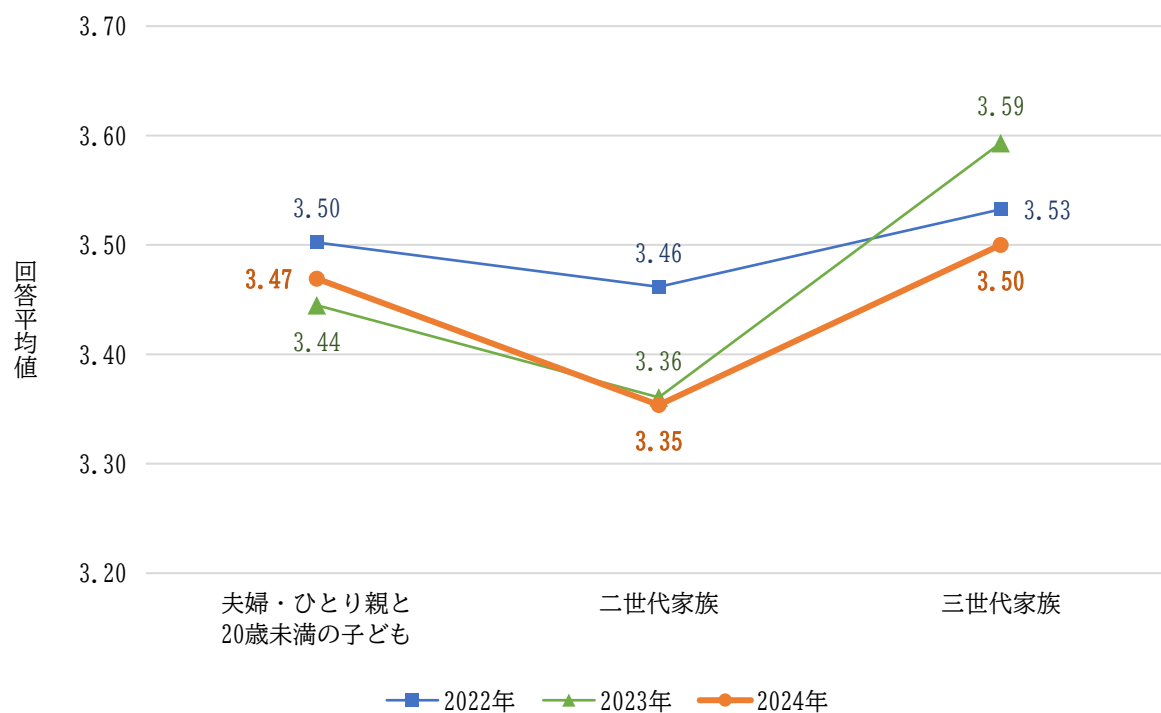
図14：子どもたちは伝統行事に参加しているか（地域別）



2024 年調査における家族構成別の結果は、図 15 のとおりである。

前回 2023 年調査においては、親と子と孫の「三世代家族」のほうが、親と 20 歳以上の子の「二世代家族」よりも有意に回答平均値が高かったが、今回調査では家族構成による回答平均値の差に統計的な有意差は認められない。

図15：子どもたちは伝統行事に参加しているか（家族構成別）



(7) 問 18『あなたのまわりの子どもたちは、豊岡に愛着を感じていると思いますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 18 のとおりである。

全体の回答平均値にも子ども有の回答平均値にも、調査年の間で統計的に有意な差はない。

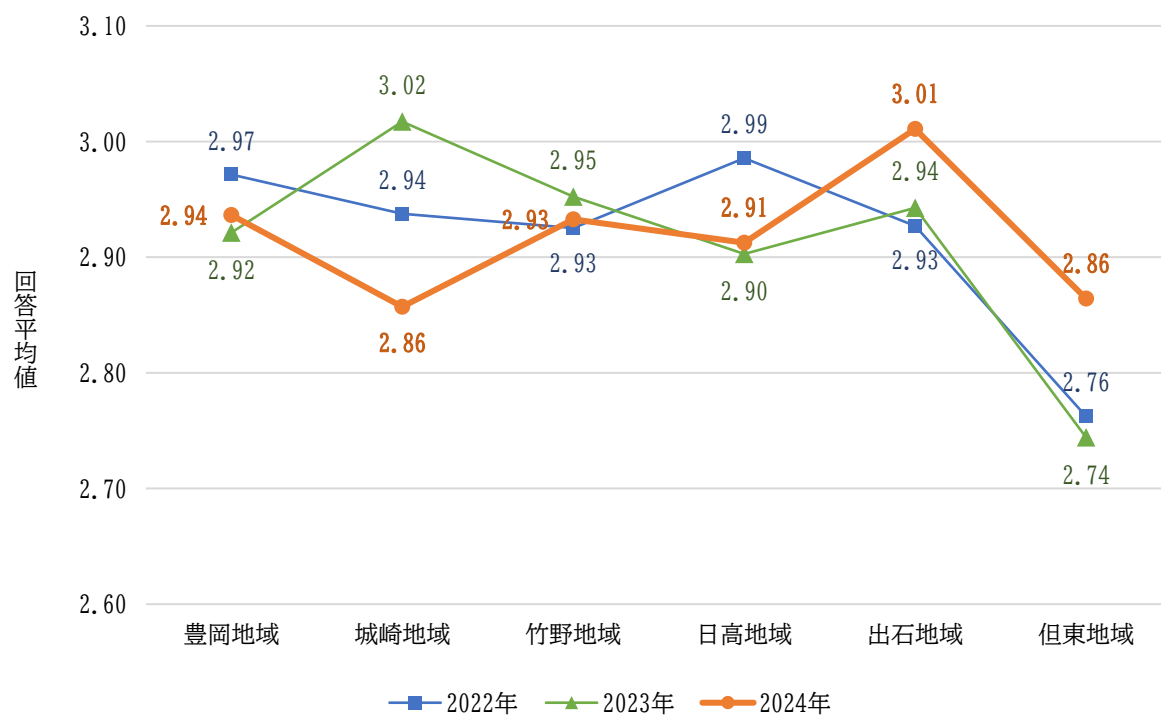
<表 18：調査年ごとの回答平均値>

	全体	子ども有
2022 年調査	2.95	3.07
2023 年調査	2.91	2.98
2024 年調査	2.93	2.96

地域別の結果は、図 16 のとおりである。

2024 年調査においては、それぞれの地域間において統計的に有意な差はない。また、それぞれの地域における前回調査との差についても、有意差は認められない。

図16：子どもたちは豊岡に愛着を感じていると思うか



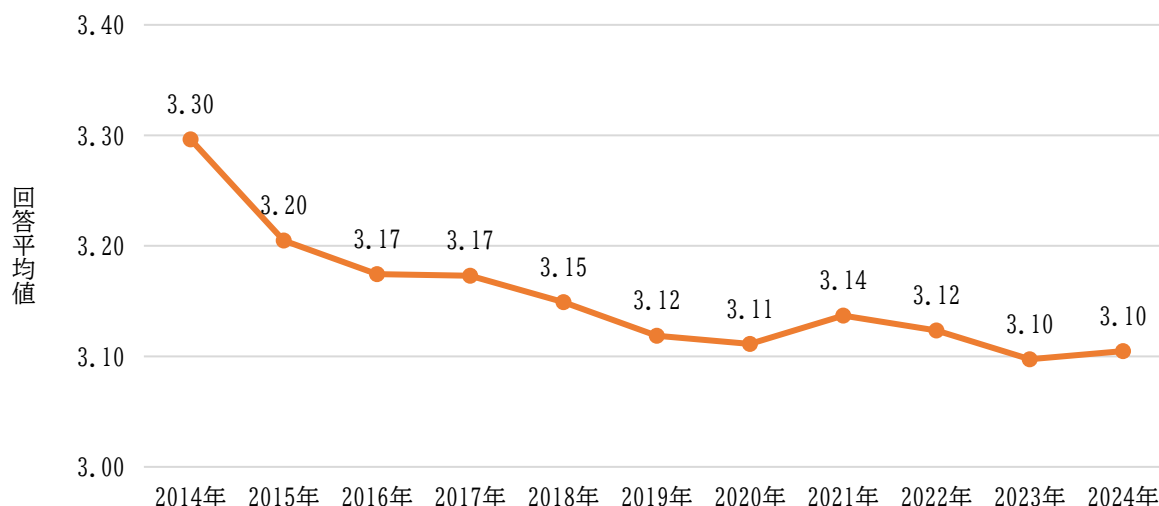
4 環境と経済について（問 19～問 20）

(1) 問 19『日常生活で環境に配慮した商品を意識して購入していますか』

これまでの調査における回答平均値は、図 17 のとおりである。

調査年ごとの回答平均値は、わずかずつではあるが低下傾向にある。ただし、この回答平均値の低下は、プラスチック使用量を削減した商品の選択や地産地消などの消費行動が身近になり、「意識して」環境に配慮した行動をとっていると思わなくなったためという可能性も考えられることから、結果の解釈については留意が必要であると思われる。

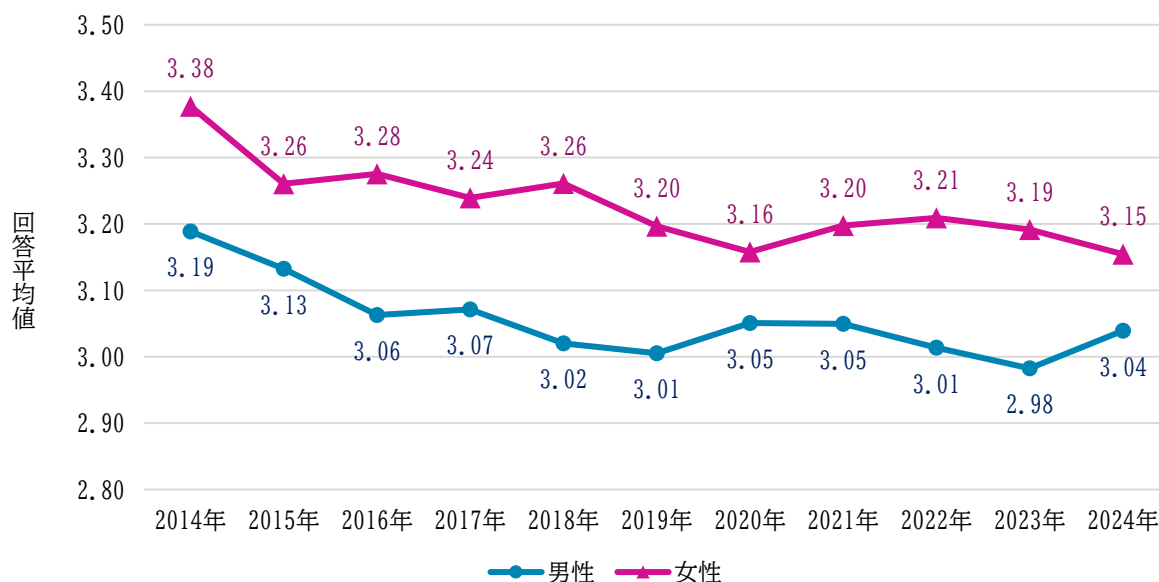
図17：環境に配慮した商品を意識して購入しているか



男女別の回答平均値は、図 18 のとおりである。

これまでの調査を通じて、男女間で統計的に有意な差がある。女性は男性に比べ、日常生活で環境に配慮した商品を意識して購入していると言える。

図18：環境に配慮した商品を意識して購入しているか（性別）

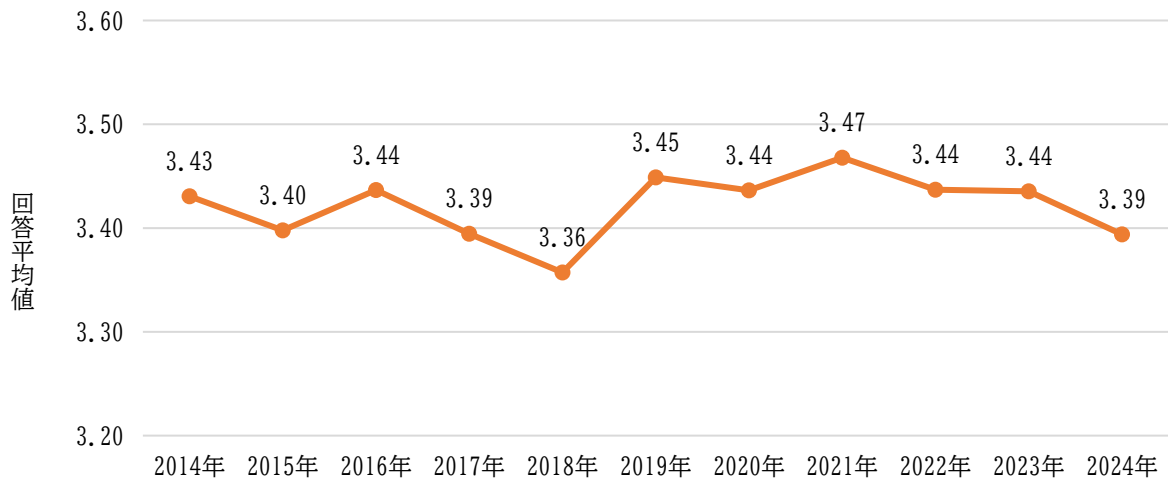


(2) 問 20『豊岡市の市民や事業者の皆さまによる環境を良くする取組みが、豊岡市の経済にもプラスになると思いますか』

これまでの調査における回答平均値は、図 19 のとおりである。

2021 年調査から回答平均値の低下が続いており、2024 年調査と 2021 年調査を比べると、有意に低下していると言える。

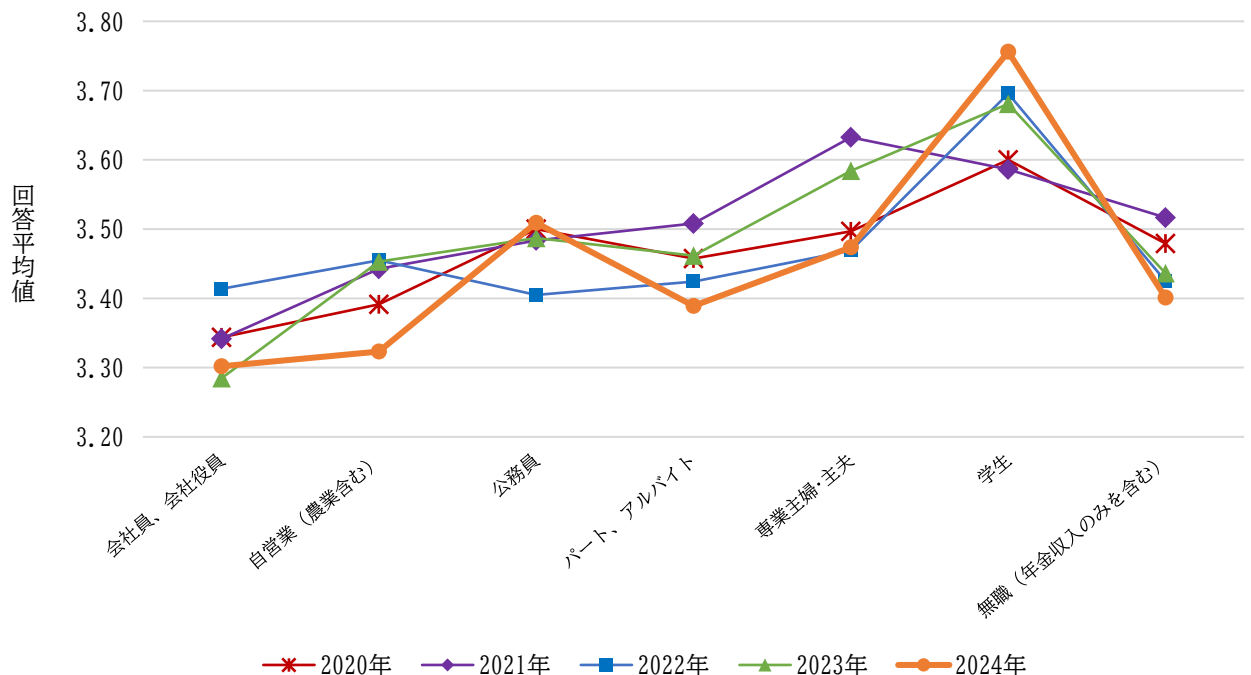
図19：環境を良くする取組みが豊岡市の経済にプラスになると思うか



職業別の結果は、図 20 のとおりである。ただし、回答数の少ない「NPO・NGO」、「その他」を除外している。

2024 年調査においては、「学生」、「公務員」、「専業主婦・主夫」の順で回答平均値が高い。同一の調査年内における職業別の回答平均値を比較すると、「会社員、会社役員」は他の職業に比べて低い傾向にある。

図20：環境を良くする取組みが豊岡市の経済にプラスになると思うか
(職業別)



5 健康と運動について（問 21～問 25）

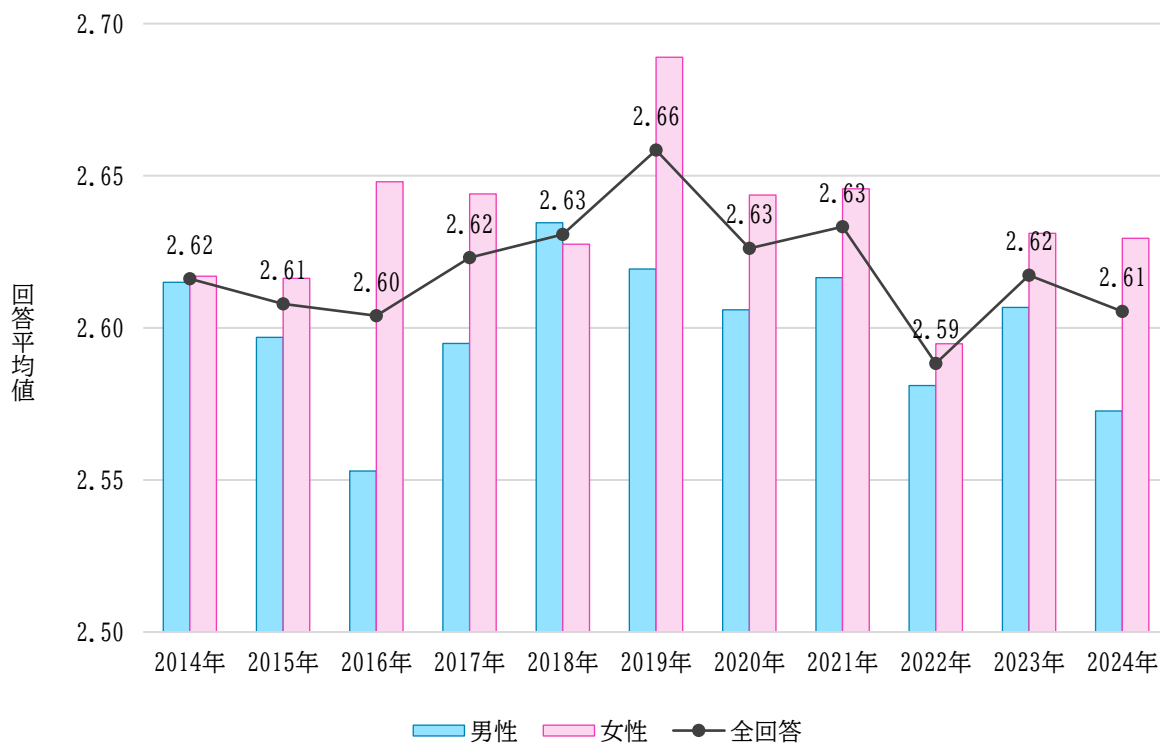
(1) 問 21『あなたは現在、自分が健康だと思いますか』

これまでの調査における、回答者全体と男女別の回答平均値は、図 21 のとおりである。

回答者全体と男女別の回答平均値について、2023 年調査と 2024 年調査の間に統計的に有意な差はない。

また、2024 年調査における男女別の回答平均値についても、統計的に有意な差はない。

図21：自分が健康だと思うか



(2) 問 22『あなたは健康維持・増進のために運動（１日 30 分以上）をしていますか』

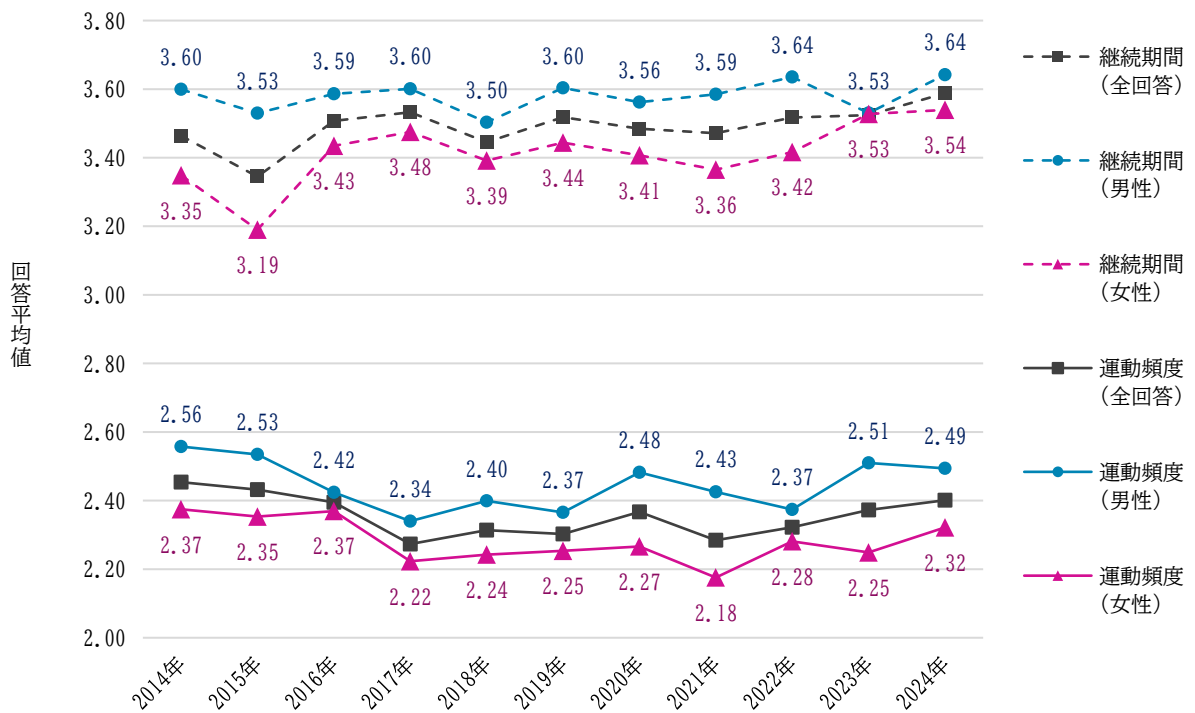
問 23『その運動はどのくらい継続されていますか』

これまでの調査における回答平均値は、図 22 のとおりである。

回答者全体と男女別の回答平均値について、2023 年調査と 2024 年調査の間に統計的に有意な差はない。

これまでの調査から、問 22 と問 23 には男女間で統計的に有意な差があり、男性は女性に比べ、運動の頻度が高く継続期間も長いことが分かっている。ただし、前回の 2023 年調査と今回の 2024 年調査では、運動頻度では同様の結果となったが、継続期間については男女間で統計的に有意な差は認められなかった。

図22：健康維持・増進のための運動頻度と継続期間



問 22 のこれまでの調査における男女別の回答割合は、表 19 のとおりである。

男性は直近 2 回の調査で「ほぼ毎日」の回答割合が上昇傾向にあるが、女性では男性ほどの数値の変化は見られない。

< 表 19：問 22 の回答数に占める割合（調査年・男女別） >

単位：％

		ほ ぼ 毎 日	週 3 日 以 上	週 2 日	週 1 日 以 下	して いない
2014年調査	男性	19.0	14.6	11.9	12.1	42.4
	女性	15.3	13.5	12.0	11.7	47.5
2015年調査	男性	19.1	13.4	12.3	12.3	42.9
	女性	14.5	13.0	12.1	14.2	46.2
2016年調査	男性	17.3	12.2	11.4	13.7	45.4
	女性	15.6	12.4	11.8	13.9	46.3
2017年調査	男性	13.1	13.1	13.6	15.4	44.9
	女性	11.0	12.9	12.3	14.9	48.9
2018年調査	男性	14.9	12.8	12.8	16.1	43.3
	女性	11.3	13.6	11.2	15.6	48.2
2019年調査	男性	14.0	14.1	11.5	15.5	45.0
	女性	11.6	12.5	12.8	15.8	47.2
2020年調査	男性	17.1	13.6	11.1	16.8	41.4
	女性	12.2	11.8	14.1	14.2	47.6
2021年調査	男性	14.1	14.8	13.1	15.7	42.3
	女性	11.1	12.1	11.2	14.5	51.1
2022年調査	男性	13.1	14.8	12.2	16.1	43.8
	女性	11.0	14.1	13.6	14.6	46.7
2023年調査	男性	17.4	13.8	12.8	14.6	41.4
	女性	11.1	12.3	14.2	15.0	47.4
2024年調査	男性	17.6	15.4	9.8	13.3	44.0
	女性	12.2	14.5	12.3	15.3	45.7

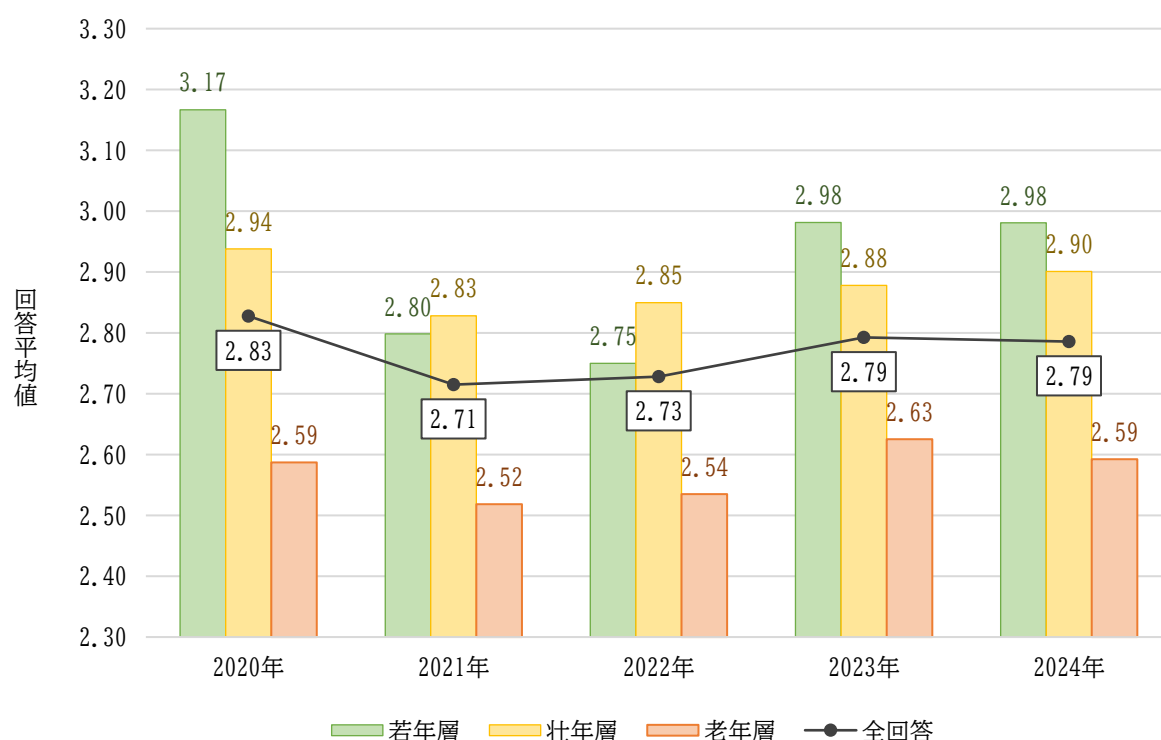
(3) 問 24『あなたは1年前と比べて、「歩くこと」など体を動かす健康づくりをする回数に変化はありますか』

これまでの調査における、回答者全体と年齢層別の回答平均値は、図 23 のとおりである。

回答者全体においても各年齢層においても、2024 年調査と 2023 年調査との間に統計的に有意な差はない。

2021 年調査において、コロナ禍による外出自粛の影響を受けて健康づくりの機会が各年齢層とも減少したが、2023 年調査からはほぼコロナ禍前の水準まで回復しているようである。

図23：1年前と比べて体を動かす回数は変化したか

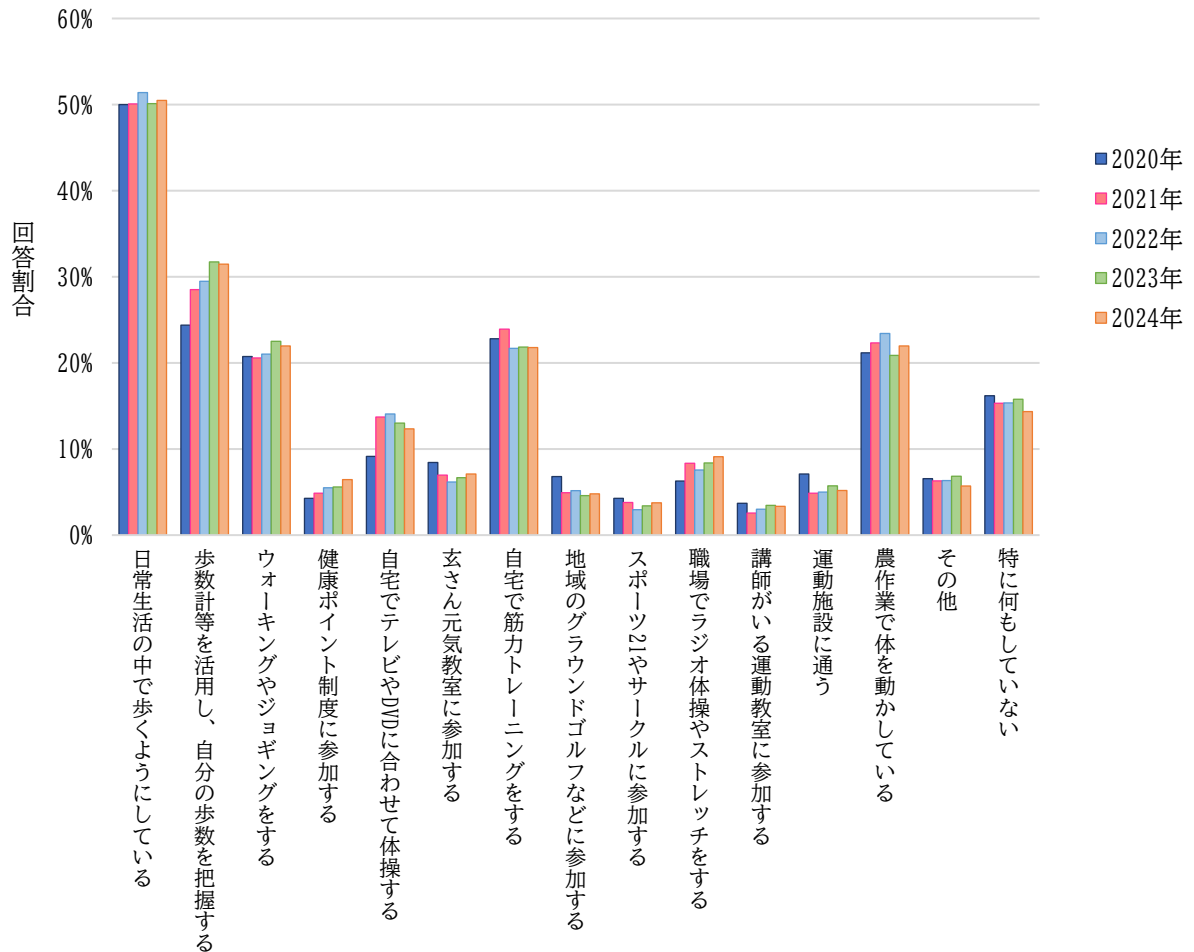


(4) 問 25『あなたは体を動かす健康づくりとして、どのようなことを実践していますか』

これまでの調査における回答数に占める割合は、図 24 のとおりである。

2020 年調査からの推移を見ると、「歩数計等の活用」の回答割合が比較的大きく上昇しており、2024 年調査においても前回調査と同水準であった。また、「健康ポイント制度に参加する」も 2020 年調査から上昇を続けていることから、これらを活用しながら「歩くこと」を健康づくりとして実践している人が増えていると思われる。

図24：健康づくりとして実践していること



男女間で回答割合に差がある項目は下記のとおりである。これらはおおむね過去の調査を通じて同様の傾向である。

<男性のほうが回答割合の高い項目>

- ・「ウォーキングやジョギングをする」
- ・「職場でラジオ体操やストレッチをする」
- ・「農作業で体を動かしている」

<女性のほうが回答割合の高い項目>

- ・「自宅でテレビやDVDに合わせて体操する」
- ・「玄さん元気教室に参加する」
- ・「講師がいる運動教室に参加する」

2024 年調査における、地域別の回答数及び回答数に占める割合は、表 20 のとおりである。

<表 20：地域別の回答数及び回答数に占める割合>

	豊岡地域		城崎地域		竹野地域		日高地域		出石地域		但東地域	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
日常生活の中で歩く	490	52.2	26	52.0	61	57.5	165	46.3	93	48.7	38	45.2
歩数計等を活用し自分の歩数を把握	279	29.7	16	32.0	29	27.4	132	37.1	63	33.0	26	31.0
ウォーキングやジョギング	201	21.4	13	26.0	22	20.8	90	25.3	39	20.4	16	19.0
健康ポイント制度に参加	68	7.2	3	6.0	9	8.5	20	5.6	9	4.7	2	2.4
自宅でテレビや DVD に合わせて体操	115	12.2	9	18.0	16	15.1	39	11.0	27	14.1	8	9.5
玄さん元気教室に参加	40	4.3	2	4.0	17	16.0	33	9.3	22	11.5	8	9.5
自宅での筋力トレーニング	199	21.2	13	26.0	28	26.4	83	23.3	36	18.8	16	19.0
地域のグラウンドゴルフなどに参加	31	3.3	1	2.0	7	6.6	21	5.9	19	9.9	3	3.6
スポーツ 21 やサークルに参加	32	3.4	5	10.0	4	3.8	10	2.8	9	4.7	4	4.8
職場でのラジオ体操やストレッチ	74	7.9	1	2.0	8	7.5	44	12.4	20	10.5	11	13.1
講師がいる運動教室に参加	35	3.7	2	4.0	2	1.9	10	2.8	7	3.7	1	1.2
プールやジムなどの運動施設に通う	56	6.0	5	10.0	4	3.8	13	3.7	10	5.2	1	1.2
農作業で体を動かしている	144	15.3	15	30.0	40	37.7	98	27.5	51	26.7	32	38.1
その他	62	6.6	1	2.0	6	5.7	19	5.3	7	3.7	4	4.8
特に何もしていない	138	14.7	7	14.0	13	12.3	51	14.3	26	13.6	12	14.3

6 公共交通について（問 26～問 29）

(1) 問 26『あなたは外出の際、移動手段について不便に感じることがありますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 21 のとおりである。

調査年の間で統計的に有意な差はない。

<表 21：調査年ごとの回答平均値>

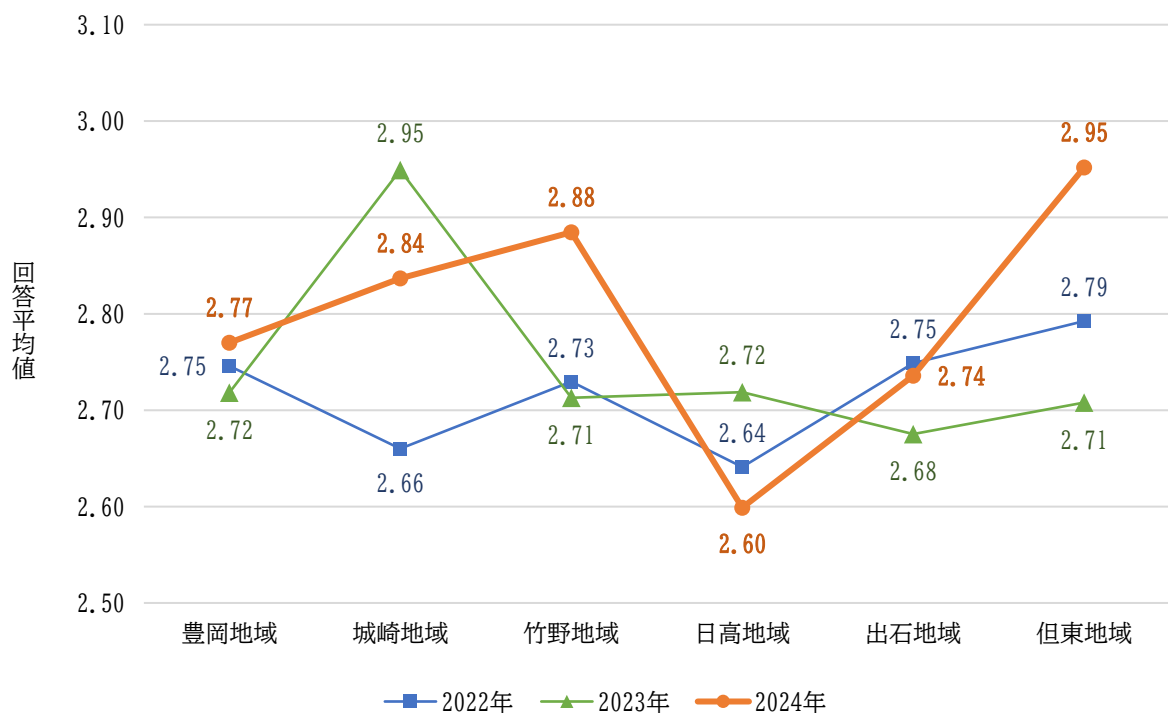
2022 年調査	2.72
2023 年調査	2.72
2024 年調査	2.75

地域別の結果は、図 25 のとおりである。

2024 年調査では、多くの地域で前回 2023 年調査から回答平均値が大きく上下しているが、いずれも統計的に有意な差は認められなかった。

地域間における回答平均値の差を見ると、日高地域は豊岡地域・但東地域との比較では平均値が有意に低く、日高地域ではこれら 2 地域と比べると外出の際の移動手段について不便に感じる人が少ないと言える。

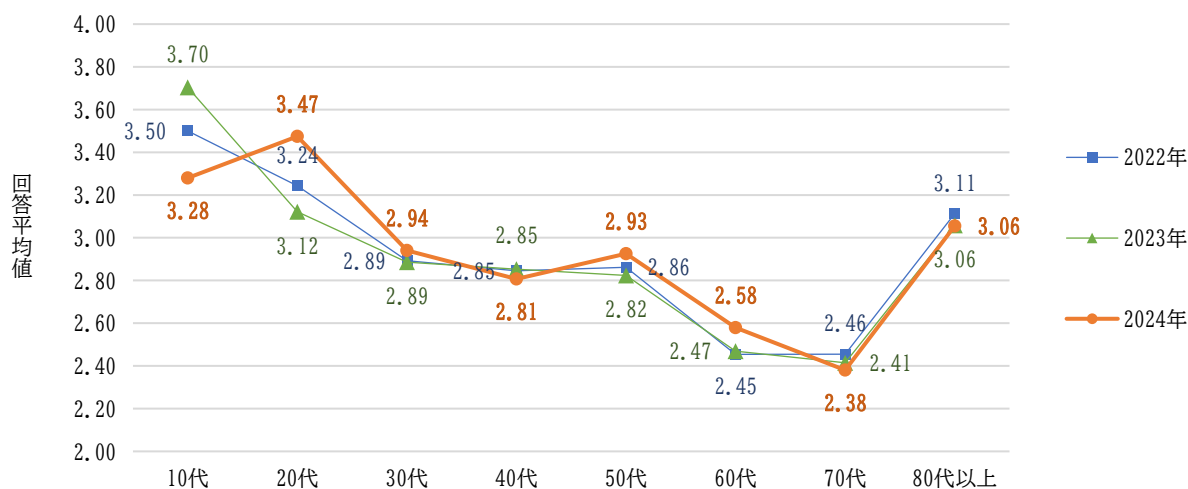
図25：外出の際の移動手段に不便を感じるかどうか（地域別）



年代別の結果は、図 26 のとおりである。

これまでの調査から、60 代及び 70 代と他の全ての年代との間で統計的に有意な差があることが分かっている。2024 年調査においても同様の結果であり、60 代及び 70 代は他の年代に比べ、移動手段の不便を感じていないと言える。

図26：外出の際の移動手段に不便を感じることがあるか（年代別）

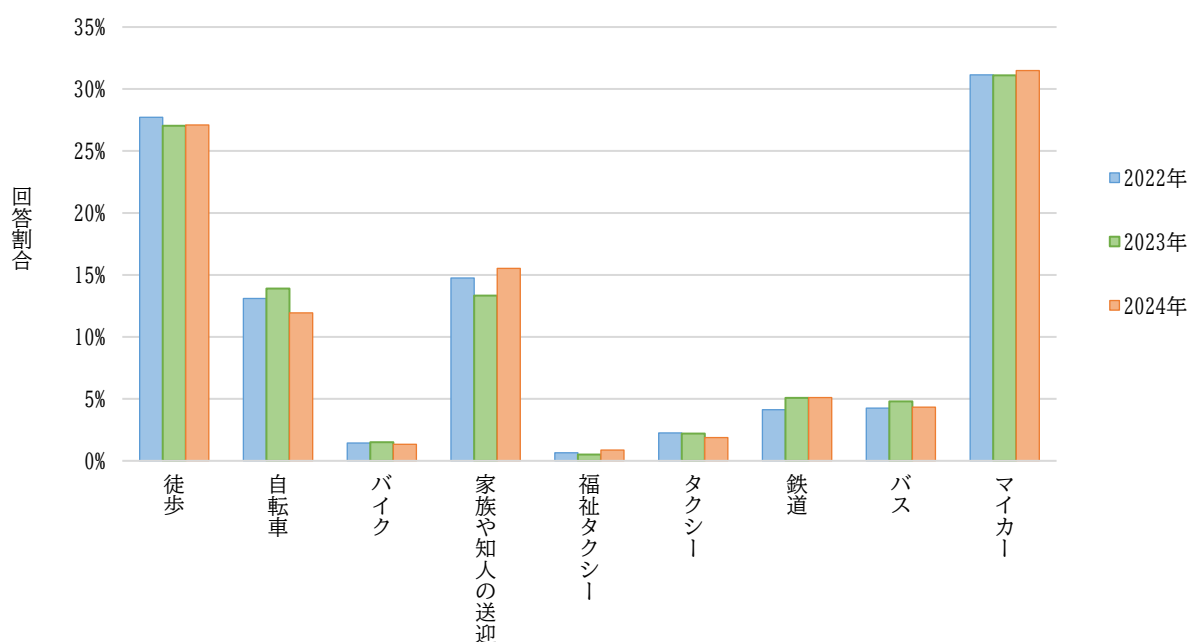


(2) 問 27『あなたは、日常生活で移動するとき、主にどの手段で移動しますか』

これまでの調査における 3 番目までの選択肢に対する回答数と全回答数に占める割合は、図 27 のとおりである。

2024 年調査では、「マイカー」(31.5%)、「徒歩」(27.1%)、「家族や知人の送迎」(15.5%)、「自転車」(11.9%) の順で割合が高い。

図27：日常生活での移動手段



2024 年調査における 3 番目までの選択肢に対する回答数と全回答数に占める割合について、地域別の結果は表 22 のとおりである。

指標となる公共交通の「鉄道」及び「バス」の項目を太囲みで表示している。

昨年と比較すると、竹野地域と但東地域において、「マイカー」の回答割合が約 3 ポイント減少する一方、「鉄道」は約 1 ポイント、「バス」は約 3 ポイント上昇した。

「鉄道」及び「バス」の回答割合を地域別で比較すると、竹野地域では共に回答割合が最も高くなっており、比較的公共交通が利用されている可能性がある。

< 表 22：地域別の回答数及び回答数に占める割合 >

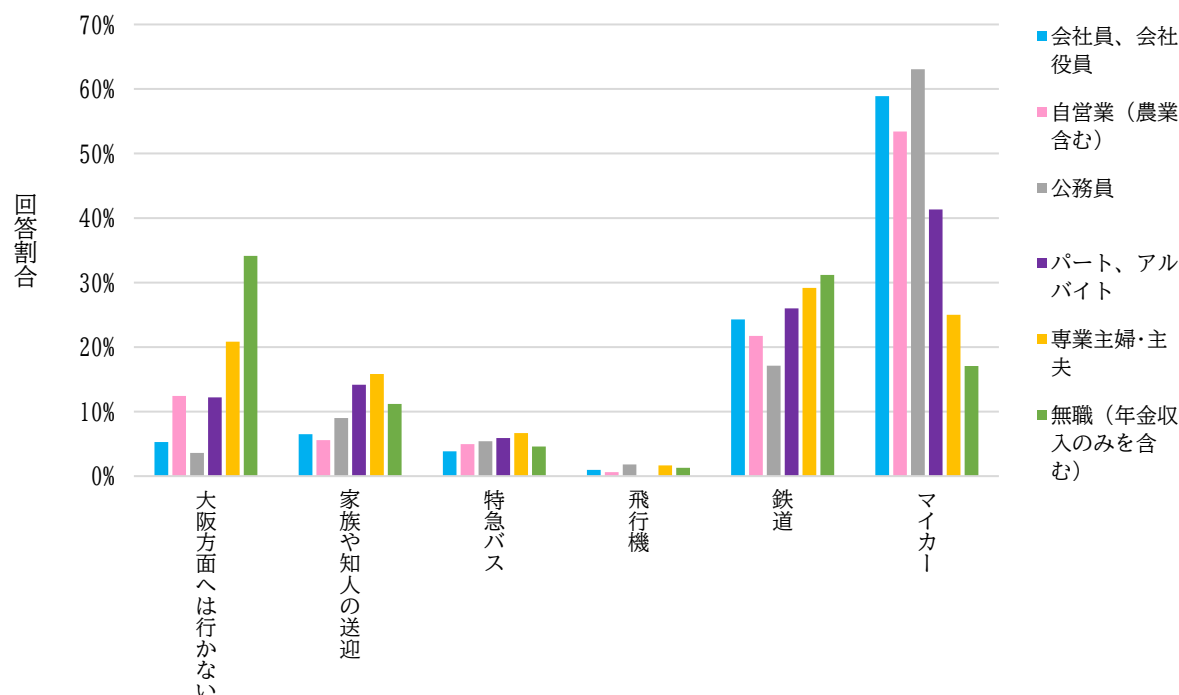
		徒歩	自転車	バイク	家族や知人の送迎	福祉タクシー	タクシー	鉄道	バス	マイカー
豊岡地域	人数(人)	667	315	29	351	17	65	106	89	724
	割合(%)	28.2	13.3	1.2	14.9	0.7	2.8	4.5	3.8	30.6
城崎地域	人数(人)	33	14	6	23	1	2	10	8	42
	割合(%)	23.7	10.1	4.3	16.5	0.7	1.4	7.2	5.8	30.2
竹野地域	人数(人)	64	28	4	47	1	2	25	20	79
	割合(%)	23.7	10.4	1.5	17.4	0.4	0.7	9.3	7.4	29.3
日高地域	人数(人)	233	92	11	137	14	7	62	39	294
	割合(%)	26.2	10.3	1.2	15.4	1.6	0.8	7.0	4.4	33.1
出石地域	人数(人)	133	65	5	74	4	5	13	22	160
	割合(%)	27.7	13.5	1.0	15.4	0.8	1.0	2.7	4.6	33.3
但東地域	人数(人)	48	7	3	42	1	1	7	11	67
	割合(%)	25.7	3.7	1.6	22.5	0.5	0.5	3.7	5.9	35.8

(3) 問 28『あなたは大阪方面へ移動する際、主にどの交通手段を用いて移動しますか』

問 29『あなたは東京方面へ移動する際、主にどの交通手段を用いて移動しますか』

職業別の回答数に占める割合は、図 28（大阪方面）、図 29（東京方面）のとおりである。
ただし、回答数が少ない職業（「学生」、「NGO・NPO」及び「その他」）を除外している。

図28：大阪方面へ移動する際の主な交通手段（職業別）



問 28（大阪方面）の職業別の回答数に占める割合について、2024 年調査と 2023 年調査との差は、表 23 のとおりである。

「大阪方面へは行かない」の回答割合が、「専業主婦・主夫」で 5.6 ポイント、「パート、アルバイト」で 5.3 ポイント低下した。また、「パート、アルバイト」以外では、「鉄道」の回答割合が比較的大きく減少している。

<表 23：2024 年調査と 2023 年調査の差>

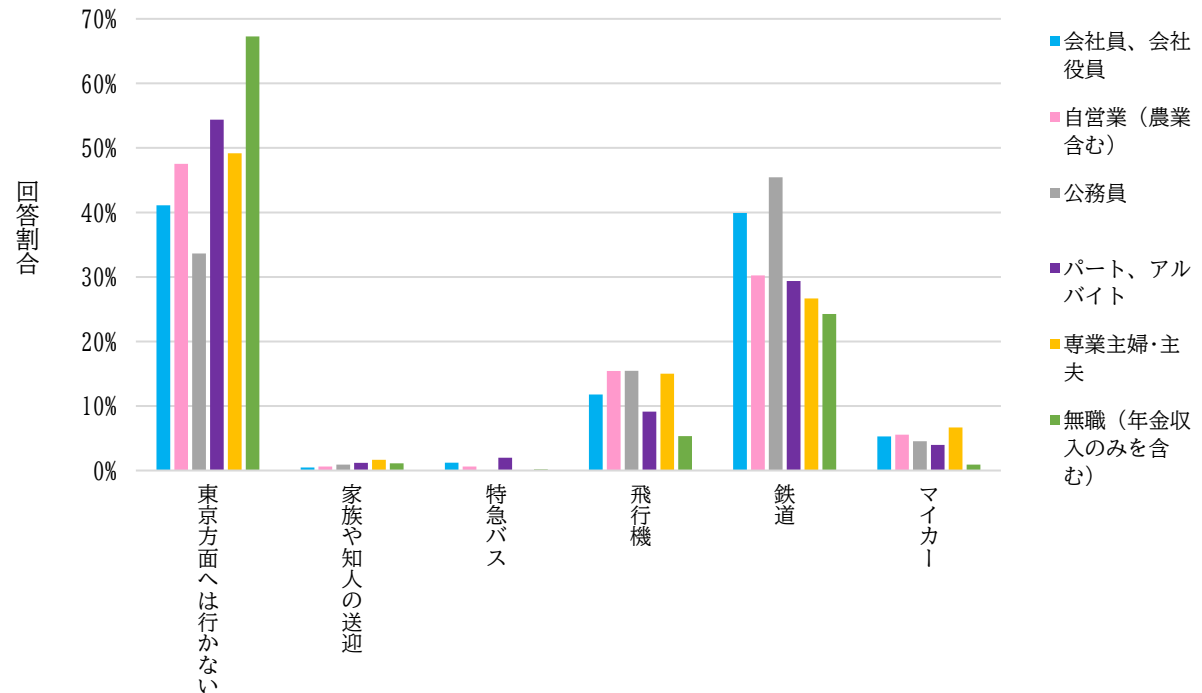
単位：％

	大阪方面へは行かない	家族や知人の送迎	特急バス	飛行機	鉄 道	マイカー
会社員、会社役員	-0.5	2.6	1.9	0.2	-2.4	-1.8
自営業（農業含む）	1.0	-1.5	-1.6	0.1	-3.8	5.0
公 務 員	1.0	7.3	-1.4	0.1	-8.5	3.2
パート、アルバイト	-5.3	4.8	0.1	-1.2	0.3	0.9
専業主婦・主夫	-5.6	3.1	1.3	1.7	-4.7	3.4
無職（年金収入のみを含む）	0.4	0.6	2.0	1.1	-2.8	-1.4

問 29（東京方面）については、公務員以外は4割以上が「東京方面へは行かない」と回答している。

大阪方面と比べると、東京方面へは職業にかかわらず「飛行機」の利用割合が高くなっていることが分かる。

図29：東京方面へ移動する際の主な交通手段（職業別）



問 29（東京方面）の職業別の回答数に占める割合について、2024 年調査と 2023 年調査との差は、表 24 のとおりである。

「東京方面へは行かない」の回答割合が、「専業主婦・主夫」で 11.6 ポイントと大きく減少している。また、「公務員」は「飛行機」の回答割合が 4.2 ポイント減少した一方、「鉄道」は 3.6 ポイント上昇している。

<表 24：2023 年調査と 2022 年調査の差>

単位：％

	東京方面へは行かない	家族や知人の送迎	特急バス	飛行機	鉄道	マイカー
会社員、会社役員	-2.6	0.5	0.5	-0.8	4.7	-2.0
自営業（農業含む）	3.0	-0.5	-1.6	1.8	-1.8	-0.4
公務員	0.3	0.9	-0.9	-4.2	3.6	0.3
パート、アルバイト	3.8	0.4	0.8	-2.5	-1.1	-1.4
専業主婦・主夫	-11.6	0.7	0.0	5.7	-1.3	5.7
無職（年金収入のみを含む）	-0.5	0.4	-0.3	1.7	-1.5	-0.7

7 地域の歴史、伝統、文化芸術（問 30～問 35）

(1) 問 30『あなたは、地域の歴史、伝統、文化を「わが町の誇りだ」と感じますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 25 のとおりである。

調査年の間で統計的に有意な差はない。

<表 25：調査年ごとの回答平均値>

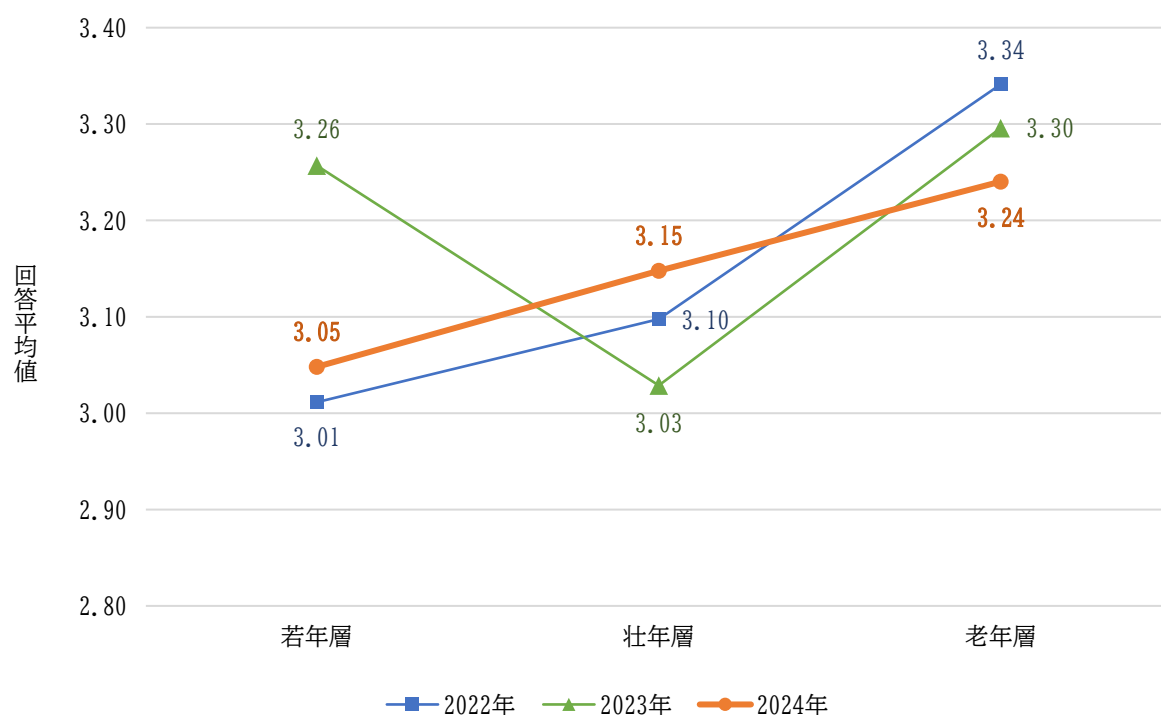
2022 年調査	3.18
2023 年調査	3.14
2024 年調査	3.18

年齢層別の結果は、図 30 のとおりである。

2024 年調査では、壮年層の回答平均値が 2023 年調査より有意に上昇しており、壮年層においては地域の歴史を誇りに思う人が昨年よりも増加していると言える。

2024 年調査の各年齢層間における回答平均値の差には、統計的に有意な差はない。

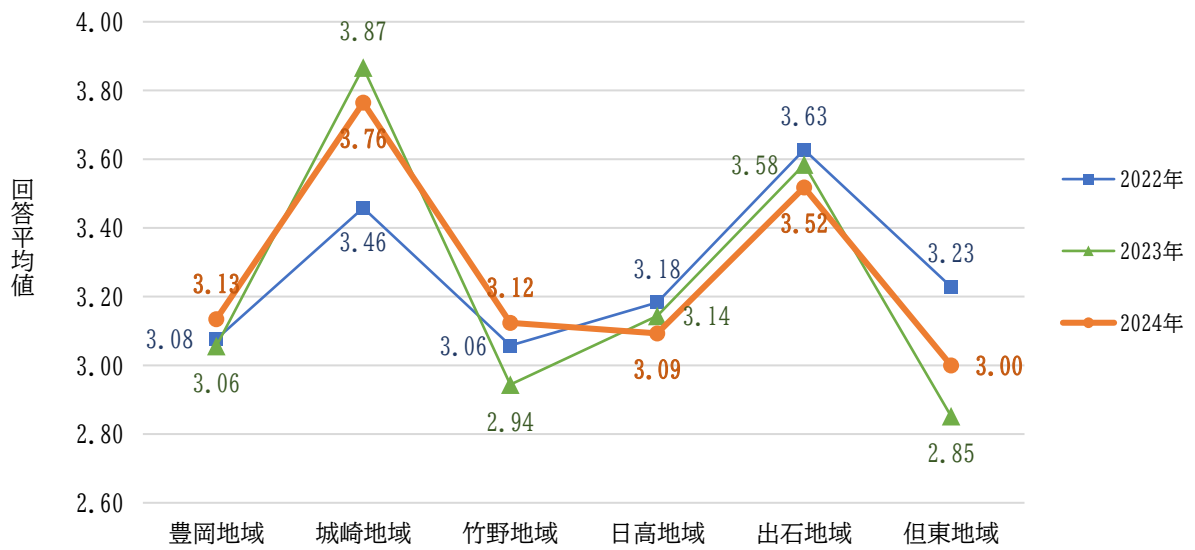
図30：地域の歴史等を誇りに思うか（年齢層別）



地域別の結果は、図 31 のとおりである。

これまでの調査を通じて、城崎地域及び出石地域と他の地域との間に統計的に有意な差がある。2024 年調査においても、この 2 地域は他の地域に比べて回答平均値が有意に高く、地域の歴史等を誇りに思っている人が多いと言える。

図31：地域の歴史等を誇りに思うか（地域別）

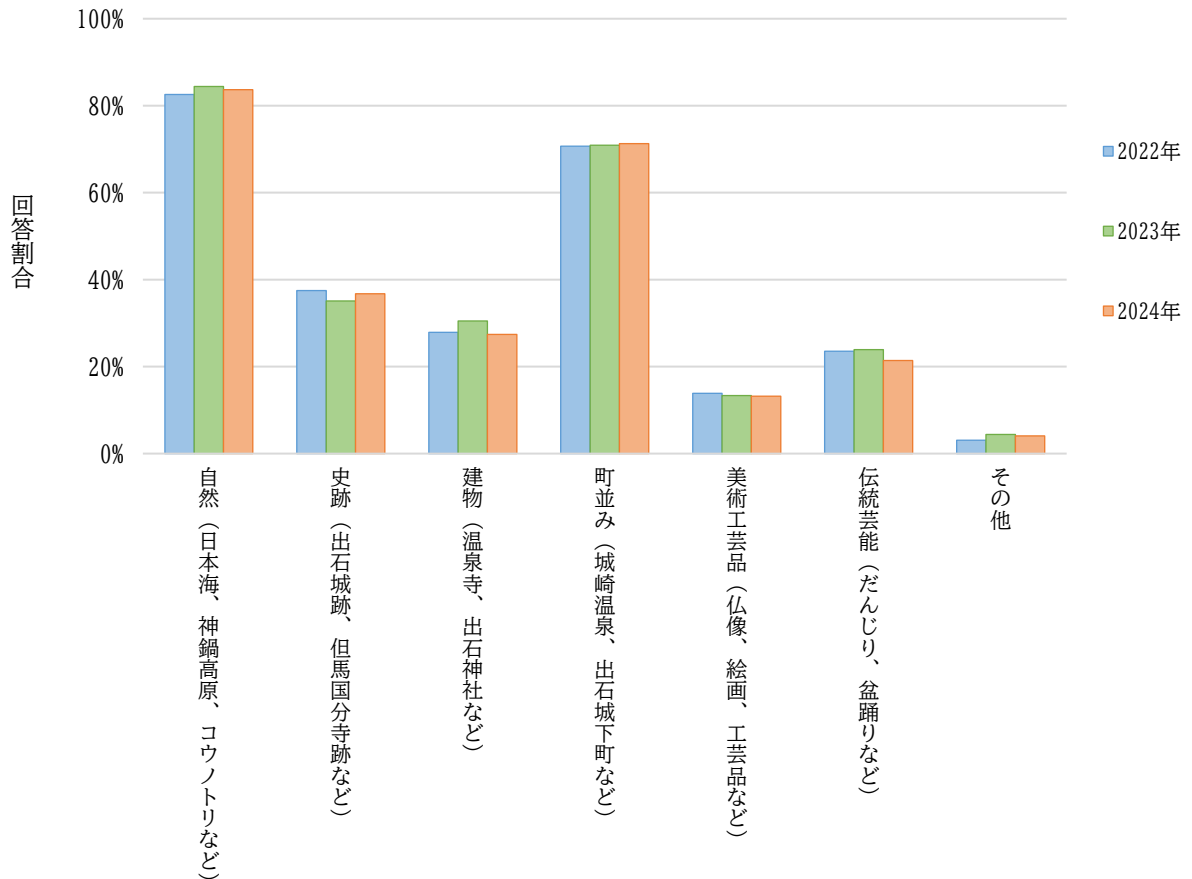


(2) 問 31『あなたは、次の中で豊岡市の誇りだと感じているものがありますか』

これまでの調査における、回答数に占める回答割合は、図 32 のとおりである。

「自然」及び「町並み」の回答割合が他の選択肢に比べ高い。

図32：豊岡市の誇りだと思う具体的な対象



(3) 問 32『あなたは、市外の人やマスメディア、SNSなどの評価によって、豊岡の歴史、伝統、文化の素晴らしさに気付かされたことはありますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 26 のとおりである。

2024 年調査と 2023 年調査の間で統計的に有意な差があり、昨年と比較すると否定的な回答が増加していると言える。

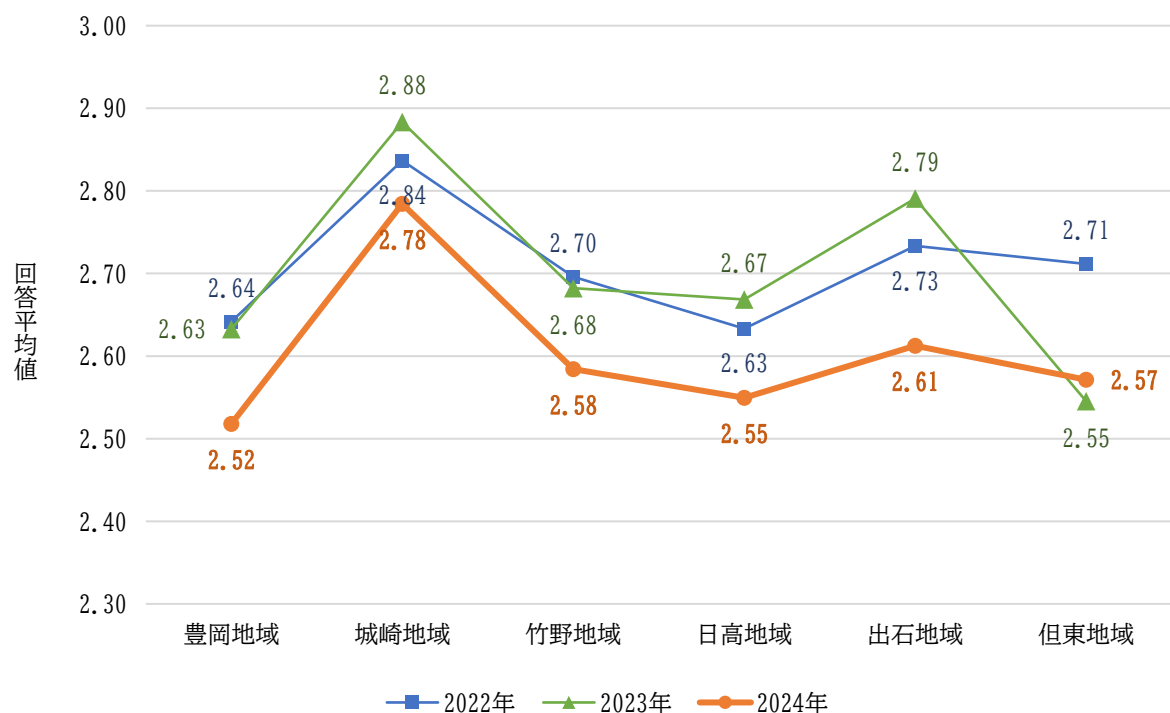
<表 26：調査年ごとの回答平均値>

2022 年調査	2.67
2023 年調査	2.66
2024 年調査	2.55

地域別の結果は、図 33 のとおりである。

地域別で見ても、但東地域以外の 5 地域で前回 2023 年調査から回答平均値が低下しているが、統計的に有意な差があるのは豊岡地域のみであった。

図33：市外の人からの評価から豊岡の素晴らしさに気付かされるか



(4) 問 33『あなたは、豊岡市を文化芸術の盛んなまちだと思いますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 27 のとおりである。

調査年の間で統計的に有意な差はない。

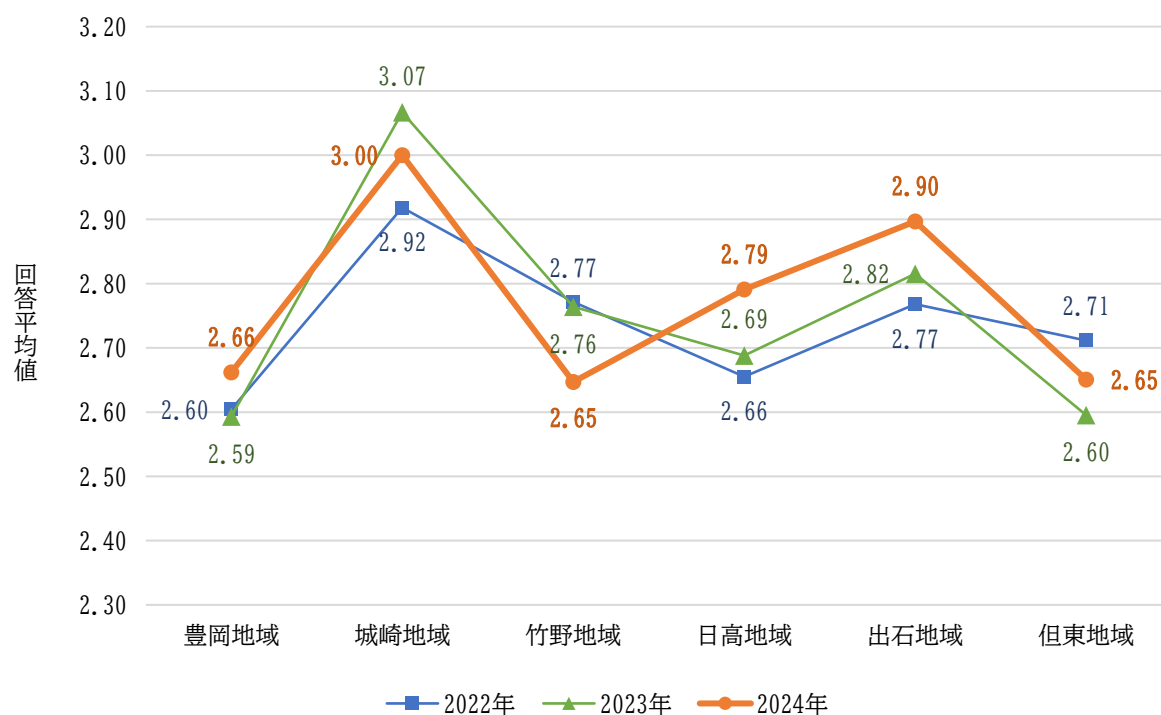
<表 27：調査年ごとの回答平均値>

2022 年調査	2.66
2023 年調査	2.66
2024 年調査	2.72

地域別の結果は、図 34 のとおりである。

2024 年調査においては、城崎地域では豊岡地域との間で、出石地域では豊岡地域・竹野地域・但東地域との間で統計的に有意な差がある。城崎地域及び出石地域では、上記の地域との比較では文化芸術が盛んなまちだと思われると言える。

図34：豊岡市は文化芸術の盛んなまちだと思うか



(5) 問 34『あなたは、一流のアーティストが創作する舞台芸術や芸術作品など、質の高い文化芸術に気軽に触れられる機会が多いまちだと思いますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 28 のとおりである。

2024 年調査と 2022 年調査の間には統計的に有意な差があり、2 年前との比較では肯定的な回答が増加していると言える。

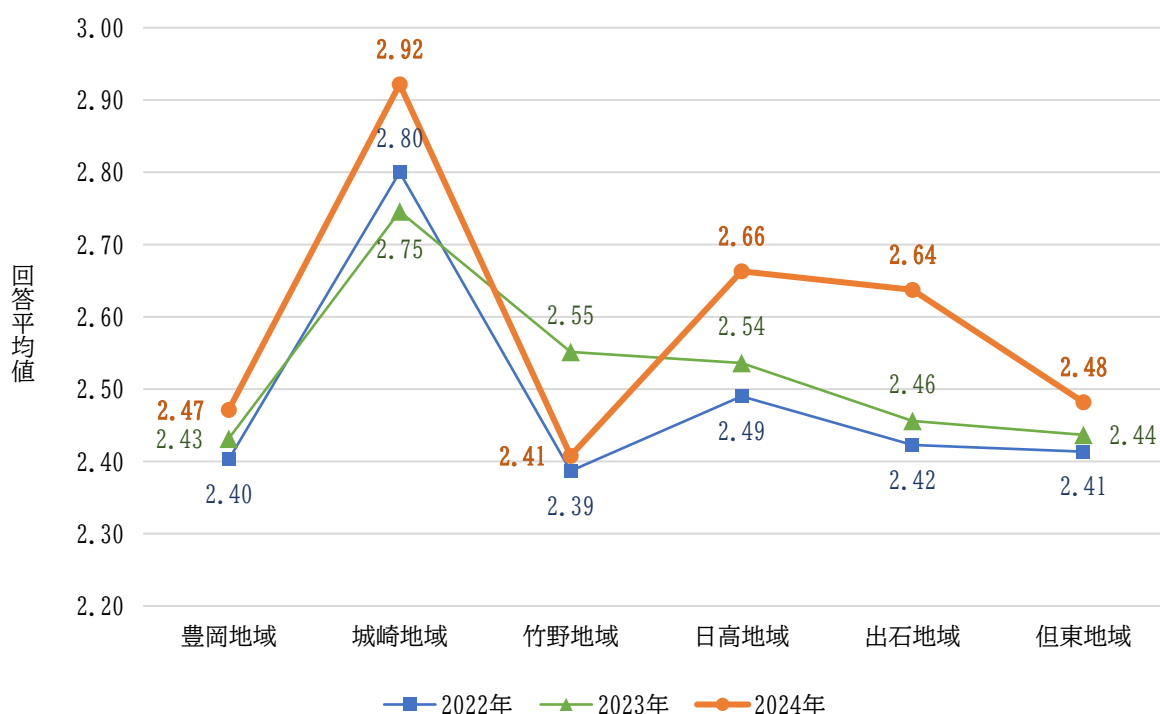
<表 28：調査年ごとの回答平均値>

2022 年調査	2.43
2023 年調査	2.47
2024 年調査	2.54

地域別の結果は、図 35 のとおりである。

2024 年調査においては、城崎地域では豊岡地域・竹野地域・但東地域との間で、日高地域では豊岡地域・竹野地域との間で、出石地域では豊岡地域との間で統計的に有意な差がある。城崎地域や日高地域、出石地域では、上記の地域との比較では文化芸術に触れられる機会の多いまちだと感じている人が多いと言える。

図35：質の高い文化芸術に触れられる機会が多いまちだと思うか



(6) 問 35『あなたは、豊岡市で活動するアーティストやクリエイターを応援したいと思いますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 29 のとおりである。

2024 年調査と 2023 年調査の間で統計的に有意な差があり、昨年と比較すると肯定的な回答が増加していると言える。

<表 29：調査年ごとの回答平均値>

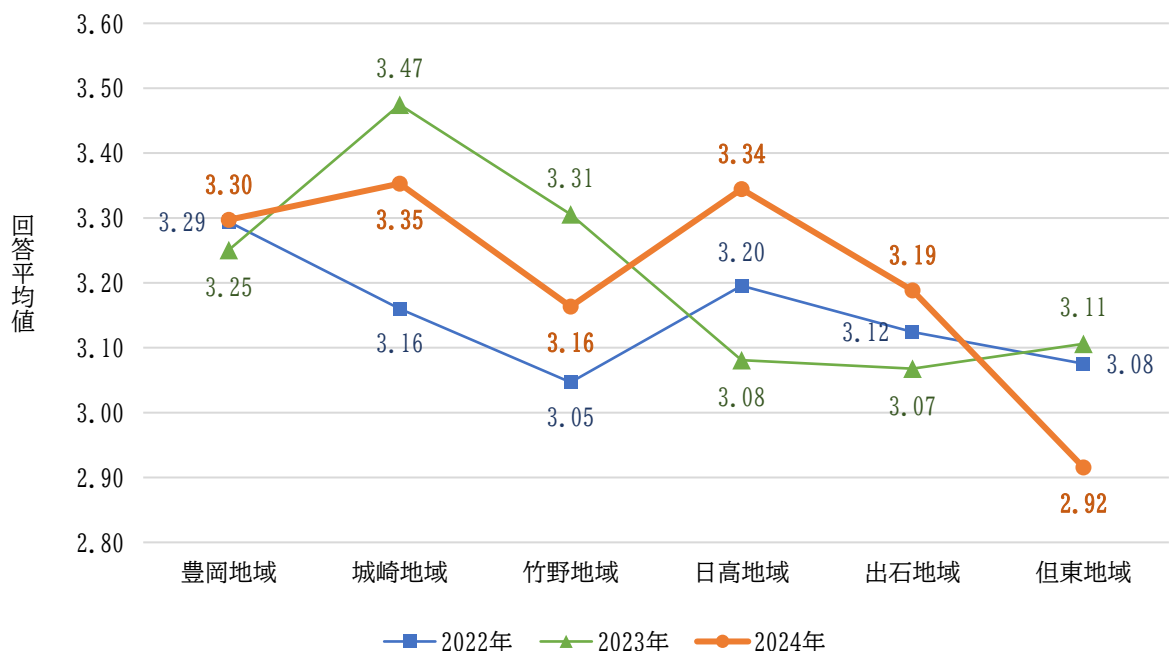
2022 年調査	3.23
2023 年調査	3.20
2024 年調査	3.27

地域別の結果は、図 36 のとおりである。

2024 年調査では、日高地域の回答平均値が 2023 年調査よりも有意に上昇しており、日高地域においては、アーティストやクリエイターを応援したいと思う人が昨年より増加していると言える。

また、2024 年調査における地域間の回答平均値の差を見ると、但東地域では竹野地域以外の 4 地域との間に統計的に有意な差がある。但東地域では、これら 4 地域と比較するとアーティスト等を応援したいと思っている人が少ないようである。

図36：豊岡市で活動するアーティスト等を応援したいと思うか
(地域別)



年代別の結果は、図 37 のとおりである。

壮年層では、前回 2023 年調査と比べて回答平均値が有意に上昇しており、アーティスト等を応援したいと思う人が増えている可能性がある。

また、各年齢層の間では、老年層と若年層・壮年層の間に統計的に有意な差があり、老年層では若年層・老年層よりもアーティスト等を応援したいと思う人が少ないと言える。

図37：豊岡市で活動するアーティスト等を応援したいと思うか
(年代別)

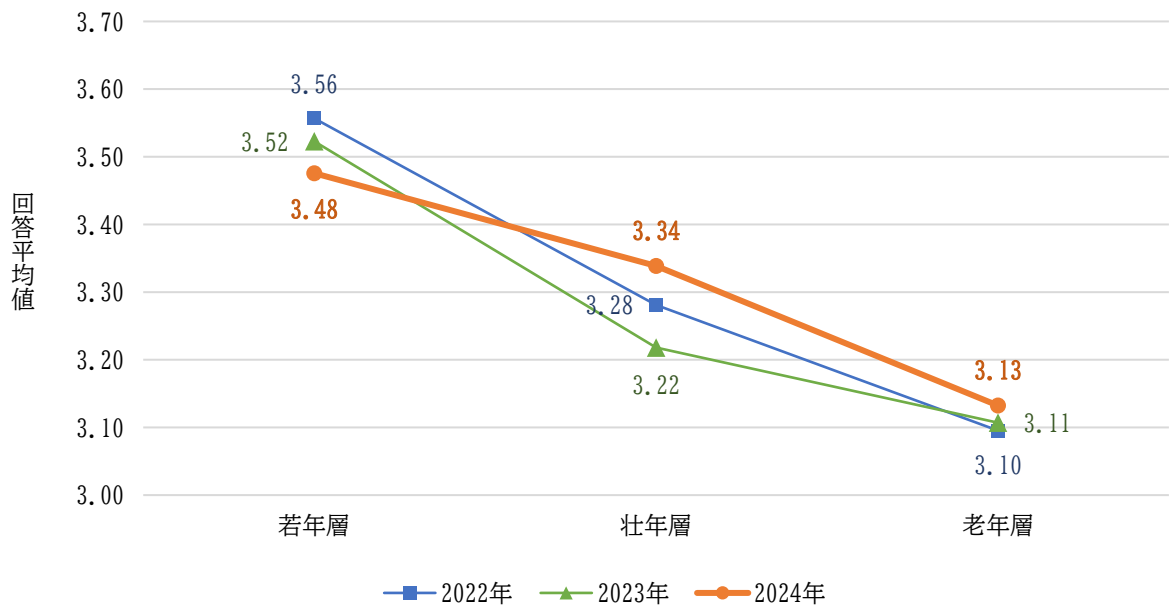
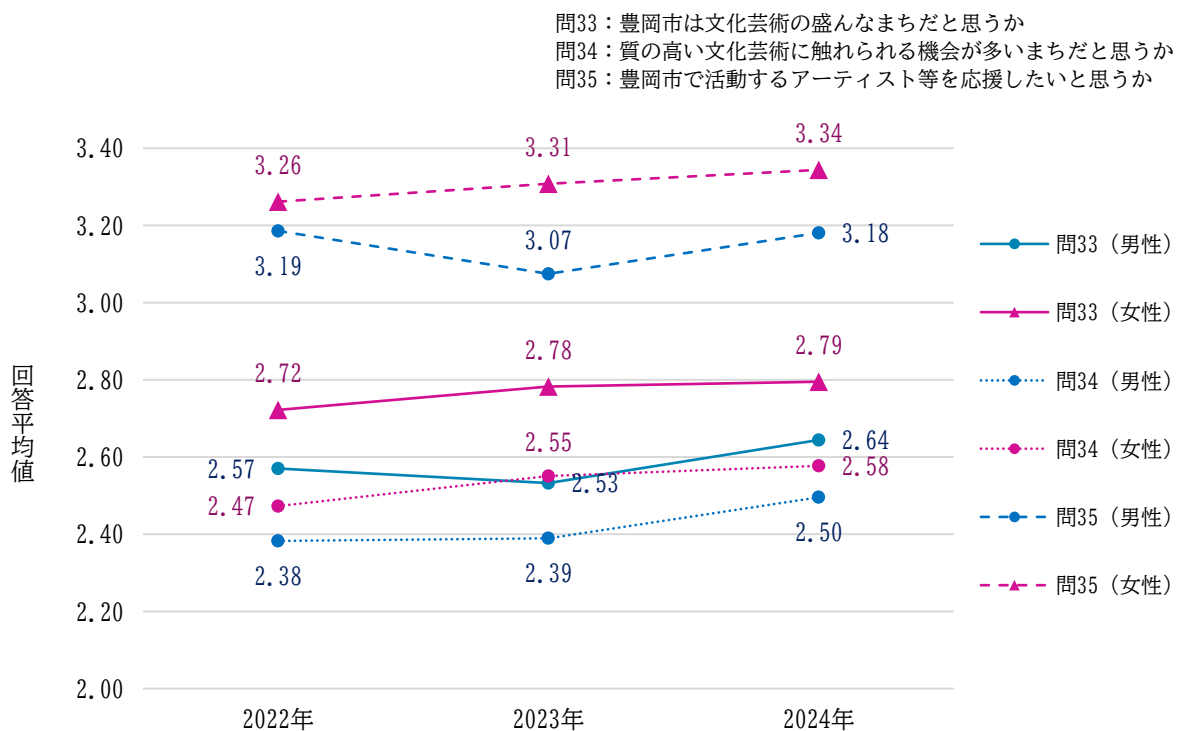


図 38 は、文化芸術に関する設問（問 33～問 35）の回答平均値を男女別にまとめたグラフである。

これまでの調査を通じて、男性よりも女性のほうが平均値が高い傾向にある。2024 年調査においては、問 33 と問 35 で女性のほうが有意に回答平均値が高かったが、問 34 では男女間で統計的に有意な差は認められない。

図38：問33～問35の回答平均値（男女別）



8 防災について（問 36～問 42）

(1) 問 36『あなたは、市民総参加訓練に参加していますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 30 のとおりである。

2023 年調査と 2024 年調査の回答平均値の差は統計的に有意な差であり、2024 年調査では昨年に比べ市民総参加訓練への参加頻度は上昇していると言える。

<表 30：調査年ごとの回答平均値>

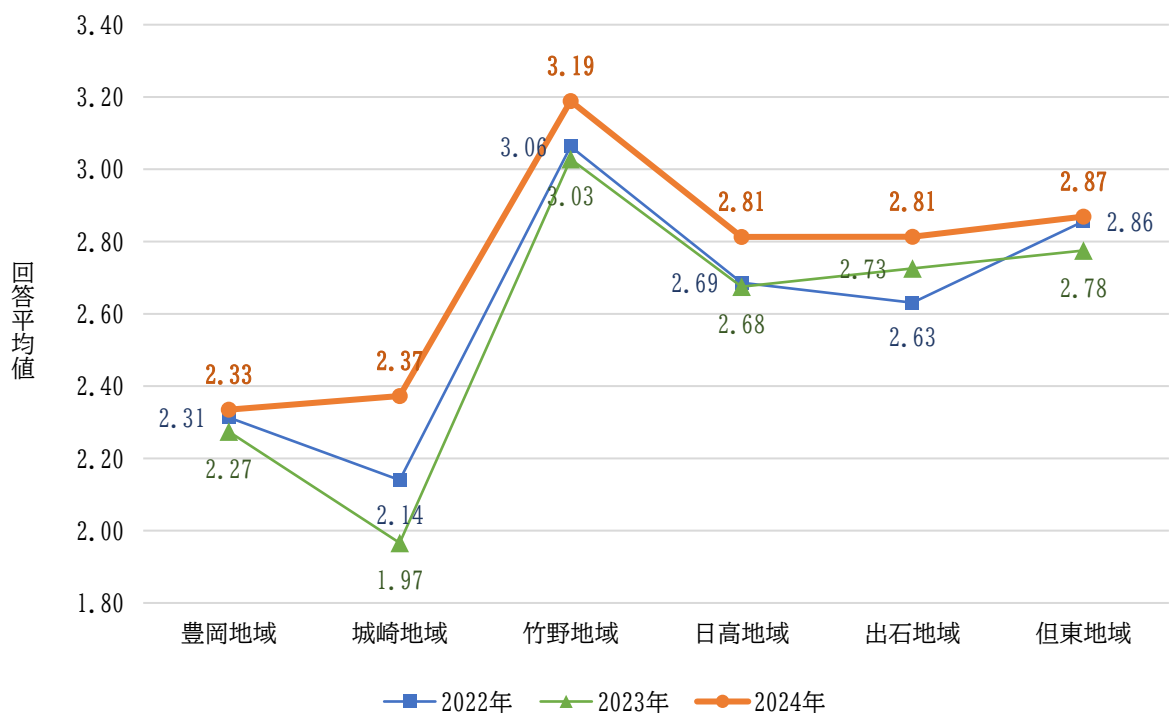
2022 年調査	2.50
2023 年調査	2.46
2024 年調査	2.57

地域別の結果は図 39 のとおりである。

城崎地域の回答平均値が前回 2023 年調査と比べて比較的大きく上昇しているが、統計的な有意差は認められなかった。

また、前回 2023 年調査と同様、豊岡地域及び城崎地域では、他の地域との間に統計的に有意な差がある。この 2 地域は他の地域に比べ、市民総参加訓練への参加頻度は低いと言える。

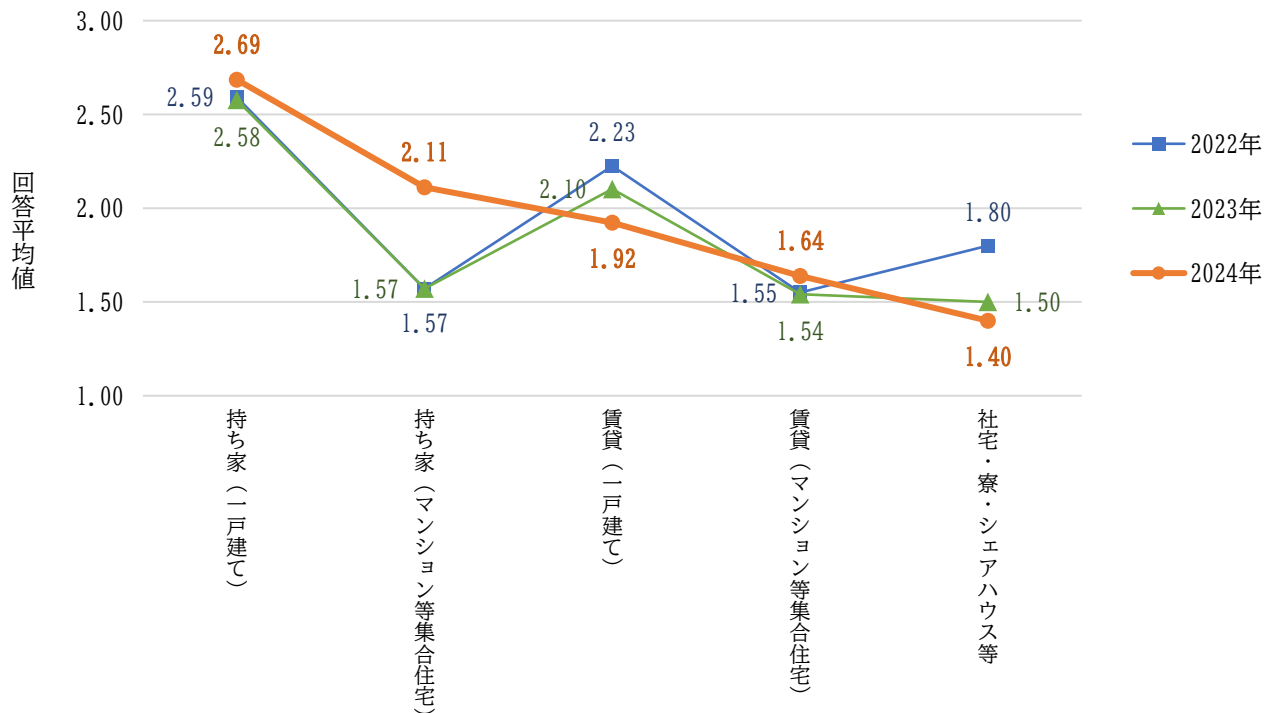
図39：市民総参加訓練に参加しているか（地域別）



住居形態別の結果は、図 40 のとおりである。

賃貸でマンション等の集合住宅に住んでいる人や社宅・寮等に住んでいる人の回答平均値が低い傾向が続いており、地域とのつながりの程度が関連している可能性がある。

図40：市民総参加訓練に参加しているか（居住形態別）



2024 年調査における、男女別・年齢層別の各選択肢の回答数と回答割合は、表 31 のとおりである。「一度も参加したことがない」の回答割合は、年齢層が低いほど、また、男性よりも女性のほうが高くなっている。

<表 31：男女別・年齢層別の回答内訳>

			一度も参加したことがない	たまに参加することがある	時々参加している	毎回参加している	合計
若 年 層	男 性	人数（人）	29	9	3	2	43
		割合（％）	67.4	20.9	7.0	4.7	100
	女 性	人数（人）	42	12	4	1	59
		割合（％）	71.2	20.3	6.8	1.7	100
壮 年 層	男 性	人数（人）	103	82	68	186	439
		割合（％）	23.5	18.7	15.5	42.4	100
	女 性	人数（人）	169	110	96	127	502
		割合（％）	33.7	21.9	19.1	25.3	100
老 年 層	男 性	人数（人）	43	68	60	127	298
		割合（％）	14.4	22.8	20.1	42.6	100
	女 性	人数（人）	93	62	80	126	361
		割合（％）	25.8	17.2	22.2	34.9	100

(2) 問 37『参加したことがないのはなぜですか』

2024 年調査における、地域別の回答数及び回答数に占める割合は、表 32 のとおりである。

これまでの調査と同様、「市民総参加訓練が実施されているかどうか知らない」及び「仕事や家事、育児、介護、学業などで時間がとれない」の回答が多い。

<表 32：地域別の回答数及び回答数に占める割合>

		自分の地域では 市民総参加訓練が 実施されていないが	市民総参加訓練が 実施されているか どうか知らない	仕事や家事、育児、 学業などで時間 がとれない	訓練が役に立つ とは思えない	関心がない	あまり人と 付き合いたくない	転入したばかり なのでまだ機会 がない	その他
豊岡地域	人数 (人)	23	118	114	16	52	40	18	34
	割合 (%)	7.3	37.3	36.1	5.1	16.5	12.7	5.7	10.8
城崎地域	人数 (人)	3	6	10	0	3	1	0	1
	割合 (%)	16.7	33.3	55.6	0	16.7	5.6	0	5.6
竹野地域	人数 (人)	4	3	5	3	5	2	0	0
	割合 (%)	33.3	25.0	41.7	25.0	41.7	16.7	0	0
日高地域	人数 (人)	5	26	29	4	12	6	6	11
	割合 (%)	6.6	34.2	38.2	5.3	15.8	7.9	7.9	14.5
出石地域	人数 (人)	1	12	11	0	10	2	3	4
	割合 (%)	2.8	33.3	30.6	0.0	27.8	5.6	8.3	11.1
但東地域	人数 (人)	6	6	5	0	6	0	0	1
	割合 (%)	31.6	31.6	26.3	0	31.6	0	0	5.3

「その他」における自由記述では、「高齢だから」や「足腰の具合がよくない」といった年齢や健康に関する理由が多く挙げた。

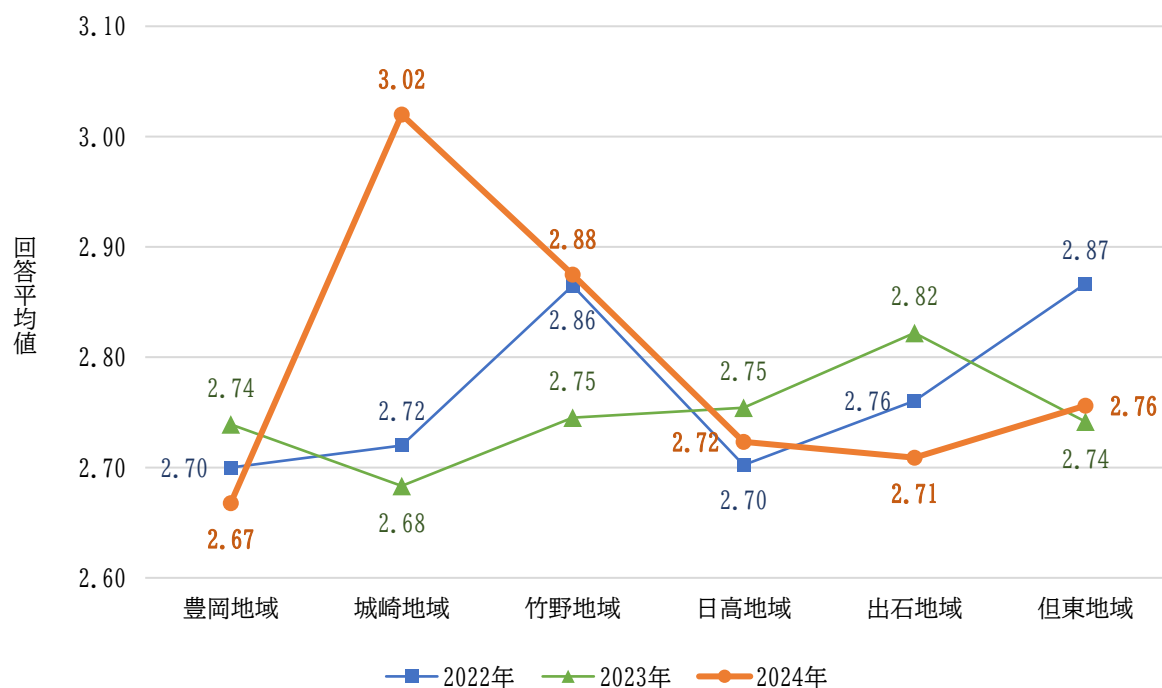
- (3) 問 38『あなたは、災害が発生したとき、自分自身の身を守る行動がとれると思いますか』
 これまでの調査における回答平均値は、表 33 のとおりである。
 調査年の間で統計的に有意な差はない。

<表 33：調査年ごとの回答平均値>

2022 年調査	2.73
2023 年調査	2.75
2024 年調査	2.71

地域別の結果は、図 45 のとおりである。
 調査年によって回答平均値が変化しており、特に地域別の傾向や特徴は見られない。

図45：災害時に身を守る行動がとれると思うか



(4) 問 39『あなたは次の防災活動に参加したことがありますか』

地域別の回答数及び回答数に占める割合は、表 34 のとおりである。

全ての地域で「区で行われる訓練」の回答割合が最も高い。

<表 34：地域別の回答数及び回答数に占める割合>

		区で行われる 訓練（市民総 参加訓練以 外）	市政出前講座	区、コミュニ ティで行われ る防災ワーク ショップ	防災学習会	北但大震災 メモリアル 写真展	台風23号 メモリアル 写真展
豊岡地域	人数 (人)	502	40	100	61	64	104
	割合 (%)	81.2	6.5	16.2	9.9	10.4	16.8
城崎地域	人数 (人)	29	1	3	5	4	8
	割合 (%)	80.6	2.8	8.3	13.9	11.1	22.2
竹野地域	人数 (人)	82	8	14	10	8	8
	割合 (%)	94.3	9.2	16.1	11.5	9.2	9.2
日高地域	人数 (人)	200	15	42	33	21	25
	割合 (%)	83.3	6.3	17.5	13.8	8.8	10.4
出石地域	人数 (人)	117	12	24	19	3	16
	割合 (%)	86.0	8.8	17.6	14.0	2.2	11.8
但東地域	人数 (人)	47	3	12	7	6	11
	割合 (%)	78.3	5.0	20.0	11.7	10.0	18.3

(5) 問 40『あなたは、以前に比べてあなたの地域での防災活動は活発に行われていると思いますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 35 のとおりである。

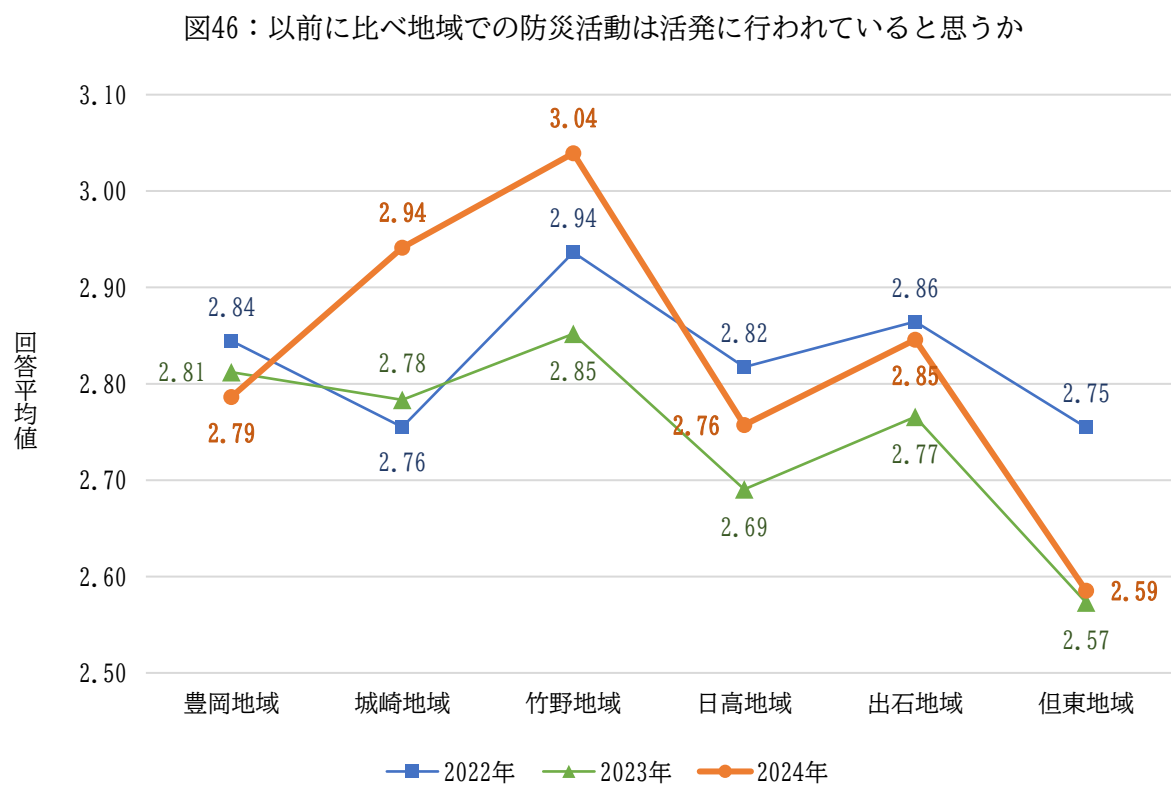
調査年の間で統計的に有意な差はない。

<表 35：調査年ごとの回答平均値>

2022 年調査	2.84
2023 年調査	2.77
2024 年調査	2.80

地域別の結果は、図 46 のとおりである。

2024 年調査においては、竹野地域と豊岡地域・日高地域・但東地域との間に統計的に有意な差がある。竹野地域では、これら 3 地域と比べると防災活動が活発に行われていると感じている人が増えていると言える。



(6) 問 41『あなたは災害に備えて次のことを実践していますか』

地域別の回答数及び回答数に占める割合は、表 36 のとおりである。

竹野地域で、防災マップ関連の項目の回答割合が高いことが分かる。特に「避難ルートの確認」は、2023 年調査でも他の地域より 10 ポイント以上高かったが、2024 年調査では昨年よりさらに 4.6 ポイント上昇しており、竹野地域では特に災害時の避難行動についての意識が高い人が多いと思われる。

<表 36：地域別の回答数及び回答数に占める割合>

		非常持出品の準備	家具の転倒防止	住宅の耐震診断や耐震改修	市が配布している防災マップの保管	防災マップで最寄りの避難場所の確認	防災マップで避難ルートの確認	助けが必要な または自分を助けてくれる(近所の人の確認)	有事の際の避難行動について家族と話し合う	防災行政無線個別受信機の電池交換	とよおか防災ネット または ひょうご防災ネットアプリに登録	マイ避難カードの作成
豊岡地域	人数 (人)	373	168	87	484	428	212	223	232	237	167	34
	割合 (%)	43.7	19.7	10.2	56.7	50.1	24.8	26.1	27.2	27.8	19.6	4.0
城崎地域	人数 (人)	21	13	4	27	27	16	12	16	20	12	2
	割合 (%)	41.2	25.5	7.8	52.9	52.9	31.4	23.5	31.4	39.2	23.5	3.9
竹野地域	人数 (人)	35	18	14	61	55	40	33	32	28	16	4
	割合 (%)	36.5	18.8	14.6	63.5	57.3	41.7	34.4	33.3	29.2	16.7	4.2
日高地域	人数 (人)	106	72	35	180	177	76	75	65	106	58	6
	割合 (%)	32.6	22.2	10.8	55.4	54.5	23.4	23.1	20.0	32.6	17.8	1.8
出石地域	人数 (人)	60	39	14	109	87	55	48	45	67	27	2
	割合 (%)	35.1	22.8	8.2	63.7	50.9	32.2	28.1	26.3	39.2	15.8	1.2
但東地域	人数 (人)	23	12	4	39	39	16	20	12	17	18	1
	割合 (%)	31.1	16.2	5.4	52.7	52.7	21.6	27.0	16.2	23.0	24.3	1.4

- (7) 問 42『「特別警報」は数十年に一度の、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状況となったとき、気象庁より発表されます。「特別警報」が発表された時には、通常救助に駆けつける消防職員や消防団員など防災関係者自身も、まずは自分の命を守る行動をとらなければなりません。あなたは、この「特別警報」のことを知っていましたか』

2024 年調査における男女別の結果は、表 37 のとおりである。

「特別警報」について知っている程度には、男女間で統計的に有意な差がある。「どのようなものか、よく知っていた」は男性のほうが、「聞いたことはあったが、どのようなものかは知らなかった」は女性のほうが有意に回答割合が高いことから、「特別警報」については男性のほうがより知っていると言える。

なお、男女別の全回答に占める各選択肢の回答割合は、男女とも昨年の調査結果とほぼ同程度である。

<表 37：男女別の回答数及び回答数に占める割合>

		「特別警報」のことを知っていたか				合 計
		つま たつ たく 知ら なか	つも た聞 たの が い か た は ど こ 知 の と は な う あ な つ	てう あ い な る た も 程 度 、 か も ど 知 の つ よ	よの 「特 別 警 報」 の か が ど く よ 知 つ て い た か 、 ど	
男性	人数（人）	79	200	365	139	783
	割合（％）	10.1	25.5	46.6	17.8	100
女性	人数（人）	96	326	395	98	915
	割合（％）	10.5	35.6	43.2	10.7	100

9 まちづくりと観光について（問 43～問 48）

(1) 問 43『あなたは、豊岡市で暮らすことに価値や魅力を感じていますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 38 のとおりである。

調査年の間で、統計的に有意な差はない。

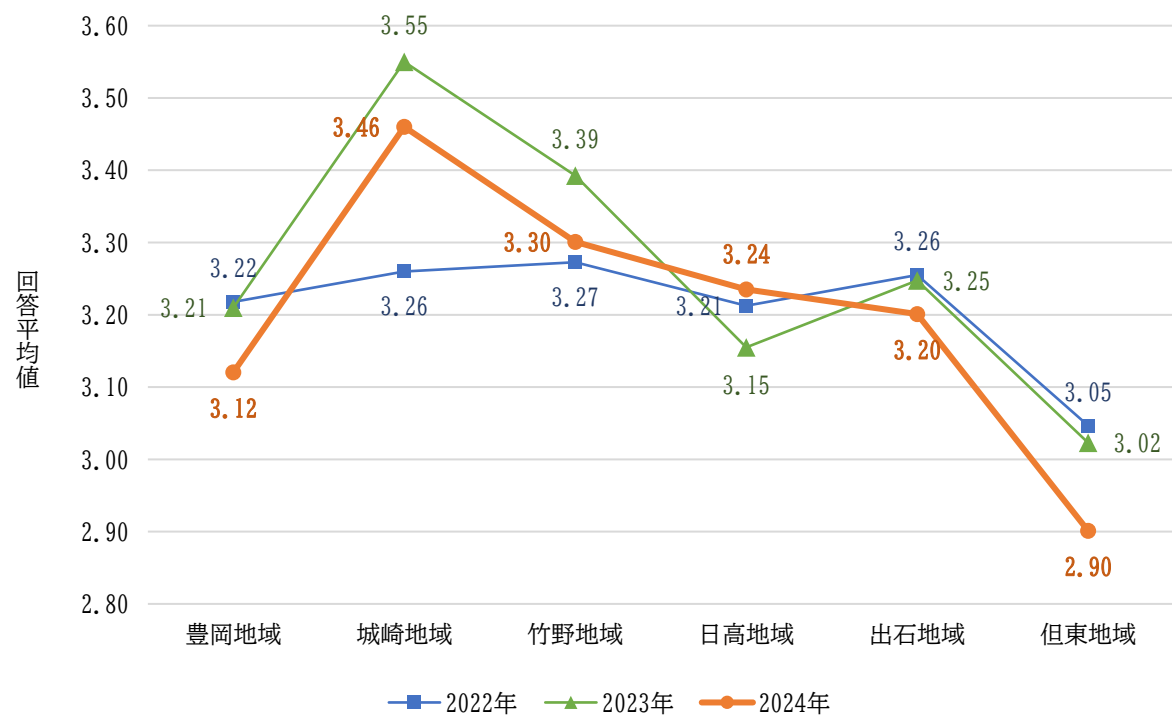
<表 38：調査年ごとの回答平均値>

2022 年調査	3.21
2023 年調査	3.22
2024 年調査	3.16

問 43 のこれまでの調査における地域別の結果は、図 47 のとおりである。

2024 年調査においては、但東地域で豊岡地域以外の 4 地域との間に統計的に有意な差がある。但東地域では、豊岡市で暮らすことに価値や魅力を感じている人が他の地域よりも少ないと言える。

図47：豊岡市で暮らすことに価値や魅力を感じているか



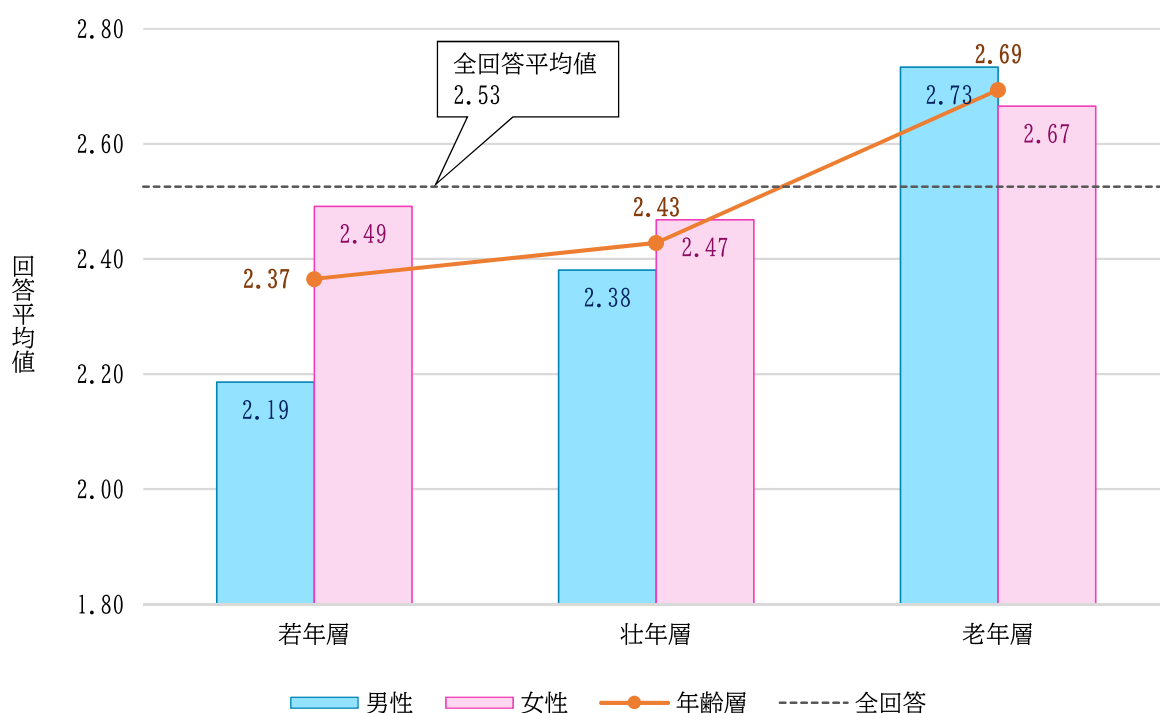
(2) 問 44『あなたは、豊岡市では市民と市役所の協働によって地域の課題解決が行われていると感じていますか』

問 45『あなたは、豊岡市では市民と市役所が十分なコミュニケーションを行って、市民の多様な意見が尊重されていると感じていますか』

問 44 と問 45 は、2023 年 10 月に策定された「第 5 次豊岡市行財政改革大綱」の目指す姿「限られた資本と多様性を活かし、市民の視点で公共サービスが持続可能な状態で提供されている」を実現するための 5 つの柱のうち、「①公共サービスが多様な人たちによって創造されている」及び「②多様な市民の思い・願いが尊重されている」の進捗状況を測るため、今回調査から追加した設問である。

それぞれの設問につき、年齢層・男女別と居住地域別の回答平均値のグラフを以下に図示する。

図48：市民と市役所の協働によって地域の課題解決が行われていると感じるか
(年齢層・男女別)



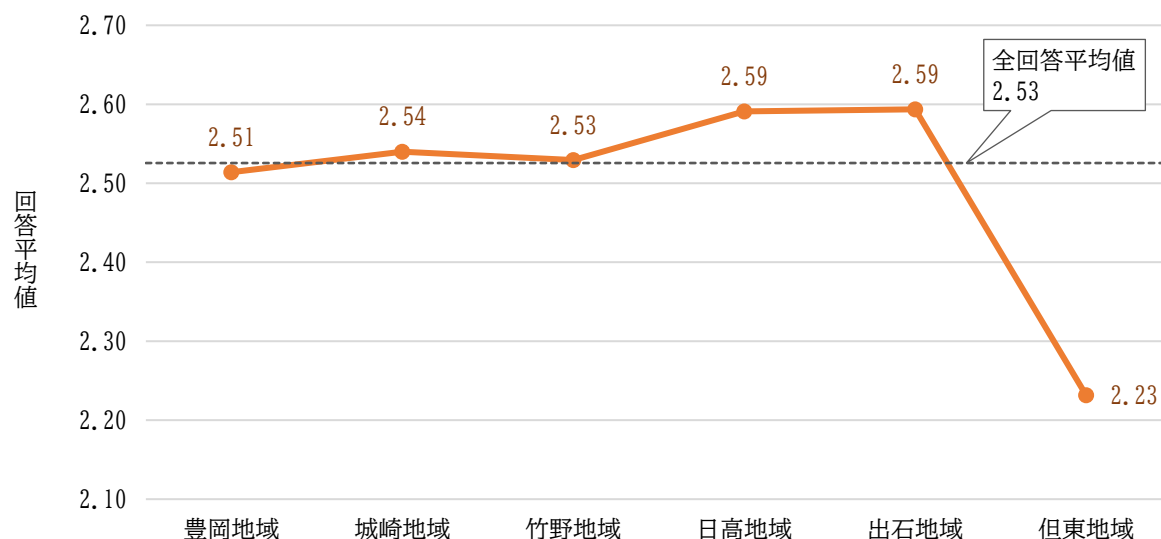
問 44 のそれぞれの年齢層における男女別の比較では、若年層と壮年層では女性のほうが、老年層では男性のほうが回答平均値が高かったが、いずれの年齢層においても男女間の差に統計的な有意差はない。

また、それぞれの年齢層の間では、老年層と壮年層・若年層の間に有意な差があり、老年層のほうが肯定的な回答が多いと言える。壮年層と若年層の間には有意な差はない。

問 44 の地域別の回答平均値は、図 49 のとおりである。

但東地域では、他の 5 地域と比べて平均値が特に低い結果であった。城崎地域以外の 4 地域との差は統計的にも有意な差であり、但東地域では他の地域に比べて、市民と市役所の協働による地域課題の解決については、否定的な意見が多いようである。

図49：市民と市役所の協働によって地域の課題解決が行われていると感じるか（地域別）

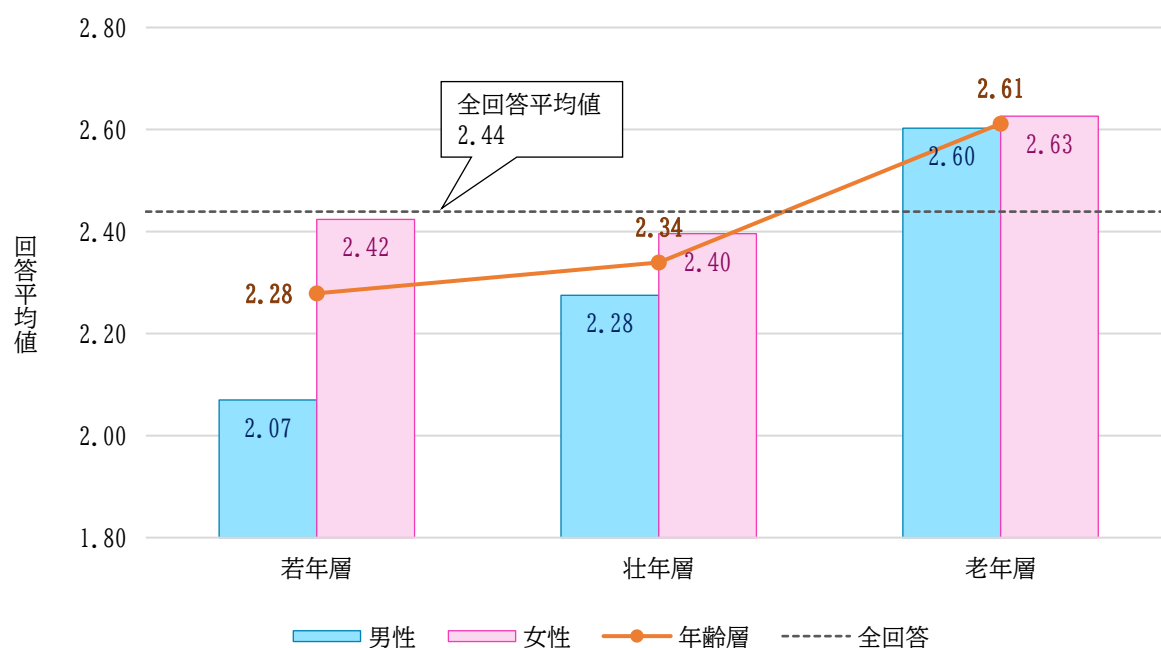


問 45 の年齢層・男女別の回答平均値は、図 50 のとおりである。

問 44 とほぼ同様の傾向であるが、問 45 では壮年層の男女間の平均値の差に統計的に有意な差があり、壮年層においては女性のほうが肯定的な回答が多いと言える。

それぞれの年齢層の間では、問 44 と同じく老年層と壮年層・若年層の間には有意差があるが、壮年層と若年層の間には有意差は認められなかった。

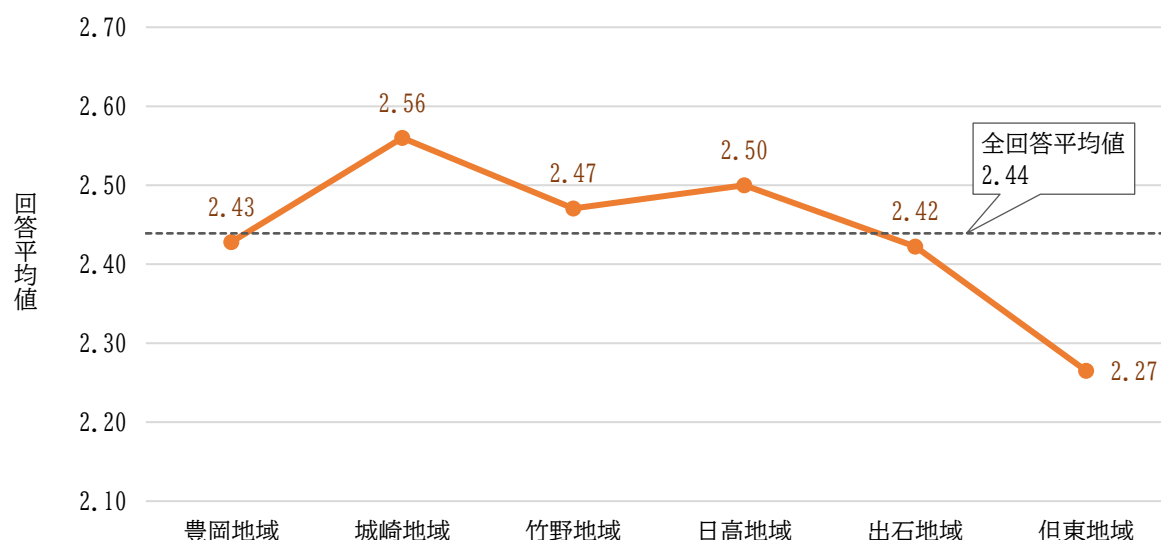
図50：市民の多様な意見が尊重されていると感じるか（年齢層・男女別）



問 45 の地域別の回答平均値は、図 51 のとおりである。

問 44 と同じく但東地域の回答平均値が最も低いが、統計的に有意な差は日高地域との間のみで、他の4地域との間には有意差は認められなかった。

図51：市民の多様な意見が尊重されていると感じるか（地域別）



問 44・問 45 と他の設問との相関係数※の上位 5 件を、下の表 39 にまとめた。なお、いずれの組み合わせも無相関検定において有意（母集団の相関係数が 0 ではない）である。

組み合わせのうち、最も相関関係があると言えるのは問 43 の「豊岡市で暮らすことに価値や魅力があると感じているか」だが、文化芸術が盛んと思うかどうかや子育てのしやすさに関する設問に肯定的な回答をしている人も、問 44 と問 45 に肯定的な回答をする傾向にあるようである。

問 44 と問 45 の相関係数は 0.78 であり、強い正の相関が認められる。

<表 39：問 44・問 45 と他の設問との相関係数>

	問 44	問 45
問 43 「豊岡市で暮らすことに価値や魅力があると感じているか」	0.43	0.41
問 33 「豊岡市を文化芸術の盛んなまちだと思うか」	0.40	0.39
問 34 「質の高い文化芸術に触れられる機会が多いまちだと思うか」	0.37	0.38
問 14 「豊岡市は子育てと仕事の両立がしやすいと思うか」	0.34	0.36
問 12 「豊岡市で安心して子育てができと思うか」	0.33	0.35

※2つの変数間の相関関係の強さを表す効果量のこと。値は-1 から 1 の間を取り、絶対値が 1 に近いほど相関関係が強いことを表す。値が正の場合は、「一方が増えれば他方も増える」という関係性となる。

- (3) 問 46『あなたは、進学や就職で豊岡市を出ていく子どもたちに対し、将来帰ってきてほしいと思いますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 40 のとおりである。

2023 年調査と 2024 年調査の回答平均値の差は統計的に有意な差であり、2024 年調査では昨年に比べ否定的な回答が増えていると言える。

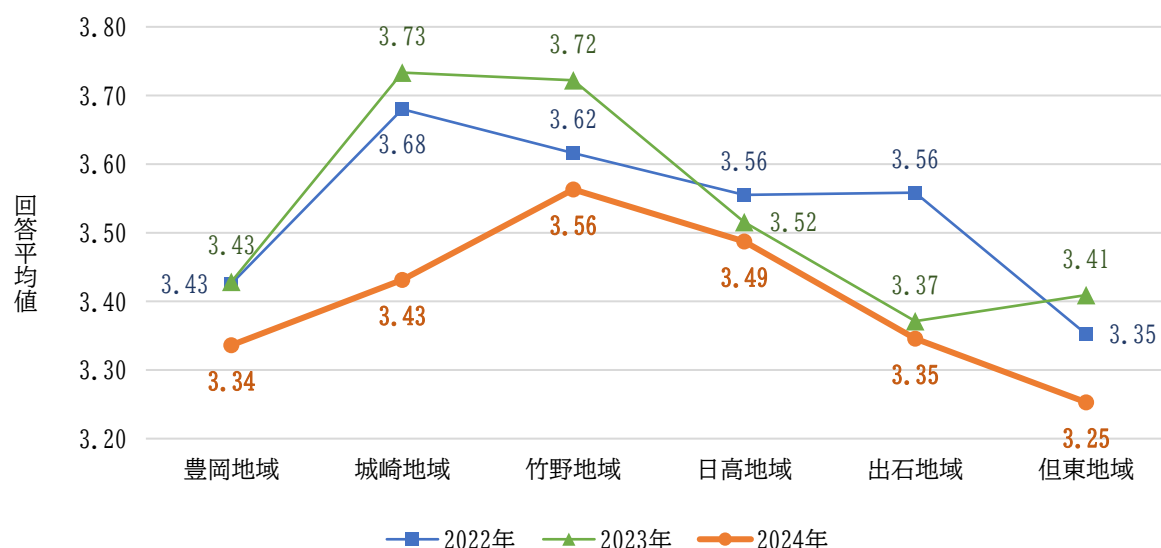
<表 40：調査年ごとの回答平均値>

2022 年調査	3.48
2023 年調査	3.46
2024 年調査	3.38

問 46 のこれまでの調査における地域別の結果は、図 52 のとおりである。

2024 年調査ではすべての地域で前回調査より回答平均値が低下しているが、居住地域別ではいずれも統計的な有意差は認められなかった。

図52：豊岡を出ていく子どもたちに将来帰ってきてほしいと思うか



- (4) 問 47『あなたが住む地域にもっと観光客が来てほしいと思いますか』

問 48『市外の人に、豊岡市を、訪れる価値のあるまちとして勧めたいと思いますか』

これまでの調査における回答平均値は、表 41 のとおりである。

問 47、問 48 とともに、2023 年調査と 2024 年調査の回答平均値の差に統計的に有意な差があり、2024 年調査ではいずれも昨年に比べ否定的な回答が増えていると言える。

<表 41：調査年ごとの回答平均値>

	問 47	問 48
2022 年調査	3.67	3.47
2023 年調査	3.68	3.52
2024 年調査	3.52	3.39

問 47 と問 48 のこれまでの調査における地域別の結果は、それぞれ図 53・図 54 のとおりである。

図53：自分の住む地域にもっと観光客が来てほしいと思うか

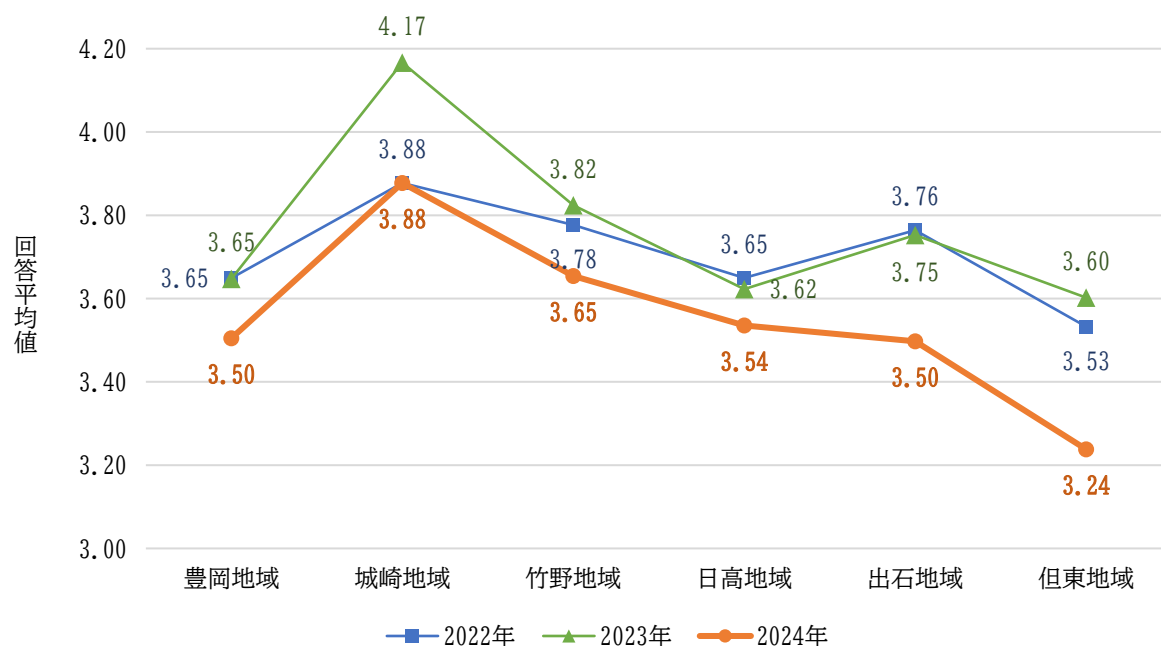
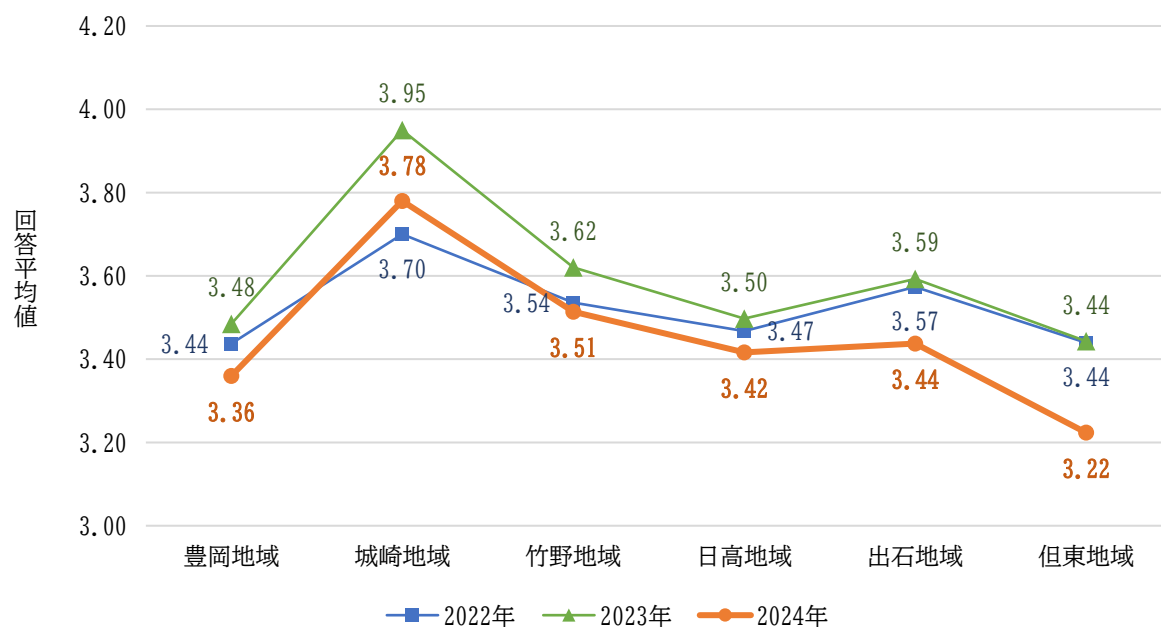


図54：訪れる価値のあるまちとして豊岡市を勧めたいと思うか



まちづくりと観光については、問 43 の豊岡市で暮らすことに価値や魅力を感じるかという質問では前回調査との有意差がなく、問 46 から問 48 の豊岡市にUターンしたり観光で訪れたりしてほしいかという質問で前回調査より有意に回答平均値が低下しているという結果であった。このことから、自分が住むまちとしてというよりも、豊岡を出ていく子どもたちや観光客に向けての価値や魅力がないと感じている人のほうがより増えているという可能性が考えられる。

Ⅲ 調査票

2024 年豊岡市まちづくりアンケート

～政策モニタリング調査～

日頃から市の取組みにご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

豊岡市では、よりよいまちづくりに活用するため、毎年、アンケートを実施しています。

このアンケートは、18歳以上の豊岡市民の皆さまの中から4,000人を無作為に抽出して送付しており、すべて匿名で処理され、個人に関わる情報が公開されることはありません。

また、集計結果は政策の改善の目的のみに使用し、その他の目的に使用することはありません。

アンケート回答の所要時間は約20分です。お忙しいところ恐縮ですが、回答にご協力いただきますようお願い申し上げます。

2024年1月15日

豊岡市

【返送締切：2024年2月5日(月)】

Webフォームからも回答可能です。

スマートフォン等で右の二次元コードを読み取るか、

下記のURLからWeb回答サイトを表示して回答をお願いします。

<https://forms.office.com/r/WMDZE VWbQx>

Web回答された場合は、この調査票の返送は不要です。



《お問い合わせ》

豊岡市役所 経営企画課（担当：和田、田下）

電話：0796-21-9022 FAX：0796-24-5932

Eメール：keieikikaku@city.toyooka.lg.jp

◆豊岡市の重要政策について評価しています。

豊岡市では、市の重要政策について評価を行い、立案した政策の改善に結び付けたいと考えています。

政策の改善の手がかりの一つにするために、このアンケートを定期的実施しています。これからもこのアンケートを実施し、政策が順調に進んでいるかどうか、どうすればもっとうまくいくかについて等の情報を得た上で、政策の改善を検討していきたいと考えています。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＜あなた自身について＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【問1】 あなたの性別は？

(1)男性 (2)女性 (3)その他

【問2】 あなたの年齢は？

(1)10代 (2)20代 (3)30代 (4)40代 (5)50代 (6)60代 (7)70代 (8)80代以上

【問3】 あなたの職業(最も多く収入を得ているもの)は？

(1)会社員、会社役員 (2)自営業(農業含む) (3)公務員 (4)パート、アルバイト
(5)専業主婦・主夫 (6)学生 (7)NGO、NPO (8)無職(年金収入のみを含む)
(9)その他()

【問4】 あなたはどこの地区にお住まいですか？

(1)豊岡地区 (2)八条地区 (3)三江地区 (4)田鶴野地区 (5)五荘地区 (6)新田地区
(7)中筋地区 (8)奈佐地区 (9)港地区 (10)神美地区 (11)城崎地区 (12)竹野南地区
(13)中竹野地区 (14)竹野地区 (15)国府地区 (16)八代地区 (17)日高地区 (18)三方地区
(19)清滝地区 (20)西気地区 (21)弘道地区 (22)菅谷地区 (23)福住地区 (24)寺坂地区
(25)小坂地区 (26)小野地区 (27)資母地区 (28)合橋地区 (29)高橋地区

【問5】 あなたの同居家族の構成は？

(1)ひとり暮らし (2)夫婦のみ (3)夫婦と20歳未満の子ども
(4)ひとり親と20歳未満の子ども (5)二世世代家族(親と子。(3)(4)を除く)
(6)三世世代家族(親と子と孫) (7)その他()

【問6】 あなたの同居家族に高校生以下の子どもがいる場合は、その人数を教えてください。

小学生以下の子ども：____ 人 中学生の子ども：____ 人 高校生の子とも：____ 人

【問7】 あなたのお住まいの居住形態は、どれにあたりますか？

(1)持ち家(一戸建て) (2)持ち家(マンション等集合住宅)
(3)賃貸(一戸建て) (4)賃貸(マンション等集合住宅)
(5)社宅・寮・シェアハウス等 (6)その他()

*該当する項目(英数字)を○で囲んでください。また、回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

===== <自然と環境について> =====

【問8】 あなたは、豊岡の自然の中で暮らすことに価値があると感じていますか？

- (1)ほとんど感じていない (2)あまり感じていない (3)どちらとも言えない
(4)ある程度感じている (5)とても感じている

【問9】 あなたは、生物多様性保全のためにどのような取組みが重要と思いますか？重要と思われるものすべてに○をつけてください。

- A 稲作(コウノトリ育む農法など)
- B 耕作放棄地のビオトープ化
- C 間伐
- D 自然に配慮した工法による河川整備
- E 環境教育の実施
- F 農地や農業施設の適正な管理
- G 湿地、里山などの保全活動
- H 自然体験活動の実施による自然への理解
- I 里山の整備
- J コウノトリをシンボルとした様々な取り組み
- K その他()

【問10】 あなたは、地球温暖化対策として、普段どのようなことを実践していますか？当てはまるものすべてに○をつけてください。

- A 省エネ行動(節電など) B ゴミの減量化(分別の徹底など)
- C 公共交通の利用 D 自然エネルギーの活用(太陽光パネルの設置など)
- E クールスポットの活用 F エコ家電の購入
- G 環境に配慮した製品の購入(オーガニック、有機JASなど)
- H クールビズ、ウォームビズの実践 I リサイクルショップなどの活用
- J 地球温暖化についての議論や対話 K その他()

【問11】 あなたは、森林資源(木質バイオマス)や自然エネルギー(太陽光、風力、水力)などの「持続可能な地域資源」が有効に利用されていると思いますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
(4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

*該当する項目(英数字)を○で囲んでください。また、回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＜子育てと教育について＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【問12】 あなたは、豊岡市で子育てをする人は安心して子育てができていると思いますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
(4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

【問13】 子育てに関する悩みや不安を相談できる窓口として、あなたが知っているものはどれですか？当てはまるものすべてに○をつけてください。

- A こども支援センター B 子育てセンター C 教育相談室 D 青少年センター
E 社会福祉課(障害・療育) F こども未来課(健康や成長、こころのケア)
G 子育てなんでも相談室 H その他()

【問14】 豊岡市の現状は、子育てと仕事の両立がしやすくなっていると思いますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
(4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

【問15】 子どもたちが集まって交流できる場所のうち、あなたが知っているものはどれですか？当
てはまるものすべてに○をつけてください。

- A 子育てセンター B コミュニティセンター C 放課後子ども教室
D 保育所等の公開保育 E 保育所等の園庭開放 F こども広場(アイティ4階)
G どれも知らない H その他()

【問16】 あなたのまわりの子どもたち(小学生・中学生)は、まわりの大人たちとのあいさつや会話ができますか？

- (1)ほとんどできていない (2)あまりできていない (3)どちらとも言えない
(4)かなりできている (5)とてもよくできている

【問17】 あなたの地域では、お祭りなどの伝統行事に子どもたち(小学生・中学生)はどのくらい参加していますか？

- (1)ほとんど参加していない (2)あまり参加していない (3)どちらとも言えない
(4)かなり参加している (5)とてもよく参加している

＊該当する項目(英数字)を○で囲んでください。また、回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問18】 あなたのまわりの子どもたちは、豊岡に愛着を感じていると思いますか？

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| (1)まったくそう思わない | (2)あまりそう思わない | (3)どちらとも言えない |
| (4)ある程度そう思う | (5)とてもそう思う | |

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＜環境と経済について＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【問19】 日常生活で環境に配慮した商品を意識して購入していますか？

- | | | | | |
|--------------|----------|---------|---------|------------|
| (1)まったくしていない | (2)していない | (3)分らない | (4)している | (5)とてもしている |
|--------------|----------|---------|---------|------------|

【問20】 豊岡市の市民や事業者の皆さまによる環境を良くする取組みが、豊岡市の経済にもプラスになると思いますか？

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| (1)まったくそう思わない | (2)あまりそう思わない | (3)どちらとも言えない |
| (4)ある程度そう思う | (5)とてもそう思う | |

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＜健康と運動について＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【問21】 あなたは現在、自分が健康だと思いますか？

- | | | | |
|-------------|---------|-------|------------|
| (1)まったく思わない | (2)思わない | (3)思う | (4)とてもそう思う |
|-------------|---------|-------|------------|

【問22】 あなたは健康維持・増進のために運動(1日30分以上)をしていますか？

- | | | |
|-------------|---------------|-------------|
| (1)ほぼ毎日している | (2)週に3日以上している | (3)週に2日している |
| (4)週に1日以下 | (5)していない | |

【問23】 【問22】の回答で(1)～(4)を選択した方にお尋ねします。その運動はどのくらい継続されていますか？

- | | | | |
|---------|-------------|--------------|----------|
| (1)1年以上 | (2)6か月～1年未満 | (3)3か月～6か月未満 | (4)3か月未満 |
|---------|-------------|--------------|----------|

*該当する項目(英数字)を○で囲んでください。また、回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問27】 あなたは、日常生活で移動するとき、主にどの手段で移動しますか？利用される頻度の高いものから3つ選んで記号を書いてください。

回 答 記 入 欄		
最も頻度が高い:[____]	2番目に頻度が高い:[____]	3番目に頻度が高い:[____]

選 択 肢			
(1)徒歩	(2)自転車	(3)バイク	(4)家族や知人の送迎
(5)福祉タクシー	(6)タクシー	(7)鉄道	(8)バス
(9)マイカー	(10)その他()		

【問28】 あなたは大阪方面へ移動する際、主にどの交通手段を用いて移動しますか？当てはまるもの1つに○をつけてください。

(1)大阪方面へは行かない	(2)家族や知人の送迎	(3)特急バス
(4)飛行機	(5)鉄道	(6)マイカー
(7)その他()		

【問29】 あなたは東京方面へ移動する際、主にどの交通手段を用いて移動しますか？当てはまるもの1つに○をつけてください。

(1)東京方面へは行かない	(2)家族や知人の送迎	(3)特急バス
(4)飛行機	(5)鉄道	(6)マイカー
(7)その他()		

===== <地域の歴史、伝統、文化芸術> =====

【問30】 あなたは、地域の歴史、伝統、文化を「わが町の誇りだ」と感じますか？

(1)ほとんど感じていない	(2)あまり感じていない	(3)どちらとも言えない
(4)ある程度感じている	(5)とても感じている	

【問31】 あなたは、次の中で豊岡市の誇りだと感じているものがありますか？当てはまるものすべてに○をつけてください。

A 自然（日本海、神鍋高原、コウノトリなど）	B 史跡（出石城跡、但馬国分寺跡など）
C 建物（温泉寺、出石神社など）	D 町並み（城崎温泉、出石城下町など）
E 美術工芸品（仏像、絵画、工芸品など）	F 伝統芸能（だんじり、盆踊りなど）
G その他()	

*該当する項目(英数字)を○で囲んでください。また、回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問38】 あなたは、災害が発生したとき、自分自身の身を守る行動がとれると思いますか？

- (1)まったくとれると思わない (2)あまりとれると思わない (3)ある程度とれると思う
(4)かなりとれると思う (5)とてもしっかりとれると思う

【問39】 あなたは次の防災活動に参加したことがありますか？当てはまるものすべてに○をつけてください。

- A 区で行われる訓練(市民総参加訓練以外)
- B 市政出前講座
- C 区、コミュニティで行われる防災ワークショップ
- D 防災学習会
- E 北但大震災メモリアル写真展
- F 台風23号メモリアル写真展

【問40】 あなたは、以前に比べてあなたの地域での防災活動は活発に行われていると思いますか？

- (1)ほとんど感じない (2)あまり感じない (3)どちらとも言えない
(4)ある程度感じる (5)とても感じる

【問41】 あなたは災害に備えて次のことを実践していますか？当てはまるものすべてに○をつけてください。

- A 非常持出品を準備している
- B 家具の転倒防止を施している
- C 住宅の耐震診断や耐震改修を行っている
- D 市が配布している防災マップを保管している
- E 防災マップを活用し、最寄りの避難場所を確認している
- F 防災マップを活用し、避難ルートを確認している
- G 有事の際、助けが必要な(または自分を助けてくれる)近所の人の存在を認識している
- H 有事の際の避難行動について、家族と話し合っている(避難場所や連絡の方法など)
- I 防災行政無線戸別受信機の電池交換をしている
- J とよおか防災ネット(またはひょうご防災ネットアプリ)に登録している
- K マイ避難カードを作成している
- L その他()

＊該当する項目(英数字)を○で囲んでください。また、回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問42】「特別警報」は数十年に一度の、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状況となったとき、気象庁より発表されます。「特別警報」が発表された時には、通常救助に駆けつける消防職員や消防団員など防災関係者自身も、まずは自分の命を守る行動をとらなければなりません。あなたは、この「特別警報」のことを知っていましたか？

- (1)まったく知らなかった
- (2)聞いたことはあったが、どのようなものかは知らなかった
- (3)ある程度、どのようなものかも知っていた
- (4)「特別警報」がどのようなものか、よく知っていた

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＜まちづくりと観光について＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【問43】あなたは、豊岡市で暮らすことに価値や魅力があると感じていますか？

- (1)ほとんど感じていない (2)あまり感じていない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度感じている (5)とても感じている

【問44】あなたは、豊岡市では市民と市役所の協働によって地域の課題解決が行われていると感じていますか？

- (1)ほとんど感じていない (2)あまり感じていない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度感じている (5)とても感じている

【問45】あなたは、豊岡市では市民と市役所が十分なコミュニケーションを行って、市民の多様な意見が尊重されていると感じていますか？

- (1)ほとんど感じていない (2)あまり感じていない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度感じている (5)とても感じている

【問46】あなたは、進学や就職で豊岡市を出ていく子どもたちに対し、将来帰ってきてほしいと思いますか？

- (1)まったくそう思わない (2)あまりそう思わない (3)どちらとも言えない
- (4)ある程度そう思う (5)とてもそう思う

＊該当する項目(英数字)を○で囲んでください。また、回答者の限定がない場合は、全員ご回答ください。

【問47】 あなたが住む地域にもっと観光客が来てほしいと思いますか？

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| (1)まったくそう思わない | (2)あまりそう思わない | (3)どちらとも言えない |
| (4)ある程度そう思う | (5)とてもそう思う | |

【問48】 市外の人に、豊岡市を、訪れる価値のあるまちとして勧めたいと思いますか？

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| (1)まったくそう思わない | (2)あまりそう思わない | (3)どちらとも言えない |
| (4)ある程度そう思う | (5)とてもそう思う | |

【自由記述欄】

アンケート項目で特に思うことや、豊岡市の市政全般にご意見がありましたら記入してください。

アンケートは以上です。
ご協力、ありがとうございました。

